

2021年度

人間福祉学部シラバス

佐久大学人間福祉学部

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間関係とコミュニケーション	(A) 100 (B) 101	1前	選	2単位 30時間	講義	(A) 木2 (B) 木3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮内克代 MIYAUCHI, Katsuyo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
ケアを受ける人にとっては、ケアを提供する人に「安心・安全・信頼」などを求めることは当然のことで、だからこそ、ヒューマンケアを目指す人にはケアを受ける人との良好な人間関係の構築が必要となる。そのためには適確で穏やかなコミュニケーションの実践が重要なキーワードになるが、本講座では、ヒューマンケアを目指す人に必要なコミュニケーションの様々な形、ケアの対象に応じた多様なコミュニケーション（言語・非言語的）のあり方と活用方法について学ぶ。このような学習を通して、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。						
到達目標						
コミュニケーションの意味と仕組みが理解できるようになる。 社会人として、また医療・福祉の専門職としての対人コミュニケーションスキルを磨くことを目標にする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、人間性豊かな教養を身につける」授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コミュニケーションとは何か 被援助者の権利と責務、ホスピタリティとケア・コミュニケーション	講義と演習を 有機的に組み 合わせる	宮内			
2	医療・福祉のコミュニケーションの役割 目的とプロセス、QOL向上とコミュニケーションの関係					
3	信頼感を高めるコミュニケーション① メッセージ伝達、言語的・非言語的コミュニケーション					
4	信頼感を高めるコミュニケーション② 場面による声かけの表現、肯定的な表現					
5	敬意を伝えるコミュニケーション 敬語の種類と使い方、クッション言葉を学ぶ					
6	被援助者への受容と共感 ペーシング、アイスブレイク、交流分析					
7	苦情やクレームに対応する ニーズとクレーム、クレームの背景と解決法					
8	説明と同意のコミュニケーション 自己決定のサポート、わかりやすい説明とは					
9	被援助者の主体的な行動を引き出すコミュニケーション コーチングの基本と表現、方法					
10	チームワークとコミュニケーション ハウレンソウ、医療・介護のチームワーク					
11	建設的で前向きな人間関係とは アサーティブなコミュニケーション、ケーススタディ					
12	障害を持つ方とのコミュニケーション 「障害」とは何か、視覚・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション					
13	認知症の方とのコミュニケーション 認知症ケアにおけるコミュニケーション					
14	終末期の方とのコミュニケーション その人らしい人生を最期まで支えるケア					
15	今期のまとめと復習					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
コミュニケーション演習の一環として、インタビューやレポートなどの課題がある。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：松田美幸他『ケア・コミュニケーション』ウイネット 参考文献：プリント配布
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（25%） 授業参加状況（25%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポートに対し、個別に講評を行う。詳細は授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
「自分の意見を相手に伝わる形にして、述べる」という体験と「さまざまな事例にどのように対処するか、考える」という考察をしていく。理論や事例などのすべてを「自分自身の問題」と考えて、積極的に授業に取り組むこと。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
信仰と文化	103	1後	選	2単位 30時間	講義	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮入宗乗 MIYAIRI, Shujo 風早康恵 KAZAHAYA, Yasue						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎回、授業終了後に教室にて質問を受ける。さらに質問に応える必要があれば学生と相談のうえ指示を行う。適宜、授業の最後に感想カードを提出して貰い、学びに活用する（学籍番号・氏名明記）。						
授業の概要						
人間社会がつくり出した文化を、その価値を共有するためには、何よりも一人ひとりの精神的価値（宗教、理念など）を束ねることが重要な課題であった。この現象は、古代から現代まで、中東からアジアの国に至るまで時代と国境を越えた人間歴史が共通する痕跡で、人間社会の本質を知る上で必須不可欠な学びである。特に信仰には、文化圏で育まれた世界観や倫理感を反映した枠組みを必ず持つが、本講座では、信仰対象の多様性と文化の成り立ちから日本の伝統精神を理解し、日本人らしさとは何かを学ぶ。さらに、日本人の生活様式、価値観、倫理観、死生観等の形成に大きく影響してきた神道、仏教の考えについて理解する。「人の生命の現場」に向きあいながら、人生の中で「ケア」の道を目指す学生と「生命観・死生観」に視点を置きながら学びを深める。						
到達目標						
1. 日本社会の形成と日本人の個々の精神生活・精神文化に深く影響を与えてきた仏教についてあらためて参究し、その視座を通して「すべての生命の尊厳」「自己存在の意味」や他者とのよりよきかんけいせいのあり方を学ぶ。 2. 自然・風土・生活のうちに醸成される信仰（神道）の根幹にあるものは、「命をはぐくみ、守り、再生させる」ことへの希求であり、一般的に「神事」と呼ばれる儀式、共同体において行われる祭礼は、そうした祈りが形を得たものであることを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、人間性豊かな教養を身につける」授業科目である。（DP2）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	学習テーマについてのオリエンテーション：（授業の方向付けと、この講座で学ぶことを示す） ・ 仏教についての基本的な知識とその成り立ち（概論）。 ①『釈尊』の生涯 ②仏教の伝播とその形態 ②日本人の宗教観における仏教の果たした功罪。（「先祖崇拜」との関連を含めて）	講義	宮入			
2	『諸行無常』と云うこと（仏教の世界観・死生観の根底にあるもの） ・ もうひとつの「諸行無常」	講義	宮入			
3	「四苦」と云うこと…この世に生まれた限りは背負うもの ・ 「苦」が「くるしみ」を超えて「人生課題」となるとき。	講義	宮入			
4	『道元』に見る「いのちの視点」【1】 ①道元禅師の生涯と足跡 ②「典座教訓」「赴粥飯法」のこころ	講義	宮入			
5	『道元』に見る「いのちの視点」【2】 「いのち」を行ずる「四摂法」について(1) ①四摂法とは②布施③愛語	講義	宮入			
6	『道元』に見る「いのちの視点」【3】 「いのち」を行ずる「四摂法」について(2) ①利行 ②同事 ③まとめ	講義	宮入			
7	まとめ ・ 看護を目指す上で、あらためて『何故生命は大切か？』を考察する。 ・ すべての「生命」への気づきについて ・ 「贈る言葉」…心を押す「ことば」たち	講義	宮入			

8	学生の何人かを指名、自己紹介・この授業に期待する事を自由に話して貰う。「信仰」「神道」「宗教」等のキー・ワードに対する印象を学生から聞き取り、簡単な定義づけと解説とを行うとともに、本授業の概要・学びの流れを説明する。	講義	風早
9	「神道」の源流を学ぶ ・自然・風土・生活のうちに育まれた共同体の信仰として ・遺跡にみる原始信仰 ・「神」はどのように理解できるか	講義	風早
10	風土の諸相と、生み出される信仰・祭祀とを学ぶ ・山宮ー里宮ー田宮の構造 ・「町」「国」「日本一国」の祭祀の構造 ・「子守り・命を守る」祭祀	講義	風早
11	神社ー「社」の源流を学ぶ ・神社の起源 ・「モリ」と「森」と「杜（モリ）」 ・様々な祈り、様々な神社	講義	風早
12	四季の神事・祭礼を学ぶ ・祭りの春夏秋冬 ・共同体の春夏秋冬 ・人生の春夏秋冬 ・命を守り・はぐくみ・再生させる祭り	講義 映像鑑賞	風早
13	古典に学ぶ神 ・『備後国風土記逸文』にみる疫神 ・おとずれ神と、神の祭り ・逍遥する神	講義	風早
14	おとずれ神ー災禍と予祝と ・『常陸国風土記』の富士と筑波 ・大和の三輪山と二神山 ・国府総社と国分寺	講義	風早
15	ディスカッション（グループ→全員）	講義	風早
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>《宮入》 毎回授業時に授業内容に応じた重点項目・箇所などを提示し、添付の補促資料の読み直しなどによる理解の向上について指示する。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。</p> <p>《風早》 学びのポイントについては授業時に説明し、さらなる学びが可能となるような資料紹介を行う。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>《宮入》 指定しない。講師作成の教材・資料集を配布する。</p> <p>《風早》 授業ごとに、講師作成の資料を配布する。学びに有用と考える書籍等は、授業のさいに紹介してゆく（購入を義務づけない）。</p>			
成績評価の方法・基準			
レポート（70％）授業参加状況（30％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>《宮入》授業時に説明する。</p> <p>《風早》授業時に説明する。感想カードは、提出ごとに2点を加算する。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>《宮入》 いのちの不思議に目覚め、人として生きる意味を確かめ、他のために役立つ、誰かに必要とされる「自分」と出会おう！</p> <p>《風早》 皆さんと一緒に、いきいきと学んでゆきたいと思います。皆さんからも、様々な、多くを教えて貰えることと、楽しみにしています。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
元任職である教員が、その実務経験を生かした授業を行います。（宮入宗乗）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
ケアと人権	105	1前	必	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○上西一貴 JONISHI, Kazuki k-jonishi@saku.ac.jp 1号館2階1217						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。						
授業の概要						
<p>ソーシャルケアの対象となる人々は、その生成過程での社会的孤立や排除、無権利や無救済などに加え、生活、社会的地位と権利などの面でいわゆる「弱者」の位置に置かれることが多い。従って、制度、サービスの運用面で最大の「配慮」を必要とするだけでなく、ケアの実践の場面においても人間の尊厳を踏まえた倫理的・道義的配慮と、人権の尊重が求められる。ハンセン病、被爆者、子どものいじめ・虐待、精神疾患患者・認知症者等の身体拘束と隔離などの、歴史的、現代的課題を学ぶことで、ケアの基本目標のひとつである基本的人権の確保と尊重についての理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>①差別されたり社会的に排除されたケアの対象者に共感できる。 ②ケアと人権の結びつきを自分の言葉で表現できる。 ③自分の身近なところにある差別や社会的排除の事例を説明できる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ケアと人権の視点－排除と差別の歴史から学ぶこと	講義	上西			
2	現代のケアと人権：ハンセン病	講義	上西・ゲスト			
3	現代のケアと人権：被爆者1（原爆被災者）	講義	上西			
4	現代のケアと人権：被爆者2（福島原発）	講義	上西・ゲスト			
5	現代のケアと人権：児童虐待	講義	上西			
6	現代のケアと人権：身体拘束	講義	上西			
7	現代のケアと人権：優性思想	講義	上西			
8	存在原理と機能原理からみるケア	講義	上西			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>事前学習：新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通してください。(15時間) 授業内で配布した資料をよく復習しておく。 事後学習：授業内で指示する参考資料などを読んでください (15時間)</p>						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
<p>テキストは定めません。 参考書は授業内で提示します。</p>						

成績評価の方法・基準
振り返りシート 50% レポート課題 50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
振り返りシートについては授業時にコメントします。とくに要望があれば個別にコメントします。
担当教員からのメッセージ
この科目ではとくに、きくこと、考えること、表現すること、が求められます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
足と健康 基本	191	1前	選	1単位 15時間	講義	木5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮原香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara@saku.ac.jp 研究室5号館2階209 ベーレ・ルツ BEHLE, Lutz ベーレ・操 BEHLE, Misao 坂江千寿子 SAKAE, Chizuko chi-sakae@saku.ac.jp 研究室5号館3階309						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
質問は授業終了後に教室で受け付けます。 授業日以外の質問はメールやmanabaで受け付けます。						
授業の概要						
「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の健康に関する取り組みの現状および本学での足育の取り組みを知り、足の健康の重要性を認識する。健康寿命を目指す佐久市に設置されている本学の役割の一つとして自身及び周囲の人々に必要とされる足の健康を守るための基本的な能力を身につける。「歩く」を支える「足」の機能、足のトラブルと「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎知識と技術を活用して、あらゆる年代の人が健やかに歩くことを支えるためのケア習慣を目指す。						
到達目標						
1. 足の健康と心身との関係が説明できる。 2. 歩行を支える足部解剖学（構造と機能）を理解できる。 3. 足部観察のポイントが理解できる。 4. 歩行のメカニズムの理解ができる。 5. フットプリント採寸の目的を理解して、正しい採寸ができる。 6. フットプリントをもとに、足のトラブル（骨の変形、皮膚）について基本的な分析ができる。 7. 靴選びの条件と正しい靴の履き方が習得できる。 8. 足部の観察方法、特に角質ケア、足爪ケアの基礎を理解し、セルフケアによって自身および周囲の人々の足部と爪のトラブルを予防できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身に着ける授業科目である」。 (DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 足育の定義 1) 本学における足育の取り組み 文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究プロジェクトの紹介、足裏測定装置の開発、足育サポートセンターでの相談事業、足の保健室等 2. 足育の必要性 1) (成人) 足の状態と靴の関係 2) 靴選びの条件と正しい靴の履き方 3) ナースシューズの選び方	講義	宮原			
2・3	3. ドイツと日本の足と靴事情 1) 専門職業的発展の歴史ードイツの整形外科靴マイスター教育制度ー 4. 足と靴に関する基礎知識と足部観察の理解 1) 足部解剖学（構造と機能） 骨格と関節、筋肉と腱、筋肉と靭帯 2) 足のアーチ構造 3) 歩行のメカニズム 5. 立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント 6. フットプリント採寸の目的と方法 1) フットプリント分析（基本編）	講義	ベーレ・ルツ、 ベーレ・操			

4・5・6	【演習1】 立位（脚軸）の観察および足部観察 【演習2】 フットプリント採寸 【演習3】 フットプリント分析（基本編）	演習	ベーレ・ルッツ、ベーレ・操、宮原、坂江他
7・8	7. 足趾と爪を守るためケア 2) 基本的な爪の切り方 3) 基本的な角質ケア 8. 爪のトラブル予防と対策	講義・演習	坂江、宮原他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 講義中に配付された資料をもとに学んだことを整理し復習しておきましょう。足部解剖学は形態機能学Ⅰ（細胞・組織学）の学びに役立ちます。 2. 1回の授業について1時間程度の復習を要します。 3. 靴選びの条件と正しい靴の履き方は日常生活においても実践し、習慣化できるようにしましょう。 4. 爪と足のケアに関する自分の足の観察、フットケアの動画の視聴を事前課題としますので、積極的に取り組みましょう。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト 指定しません。講義中に紹介します。 参考文献 講義中に紹介します。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（50％） 定期試験で評価します。 2. 授業参加状況（10％） 演習後のふりかえりとしてmanabaを使用し、提出状況を評価します。 3. レポート課題（20％） 課題は自身のフットプリント分析とします。具体的な課題内容や提出方法、評価方法については、講義中に説明します。 4. 実技試験（20％） 自分の手と足の爪切り場面を用いて、小テストを実施します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験範囲はすべての講義・演習内容となります。			
担当教員からのメッセージ			
【第4～6回の演習時の服装・持参品】 フットプリント採取時には素足になりますので、動きやすい服装、濃い色のズボン、靴下着用で参加してください。フットプリント分析時に30cm定規を使用しますので持参してください。さらに、日常で一番長く履く靴またはいつも履き慣れている靴を履いてきてください。また、足に合わずに困っている靴があれば持ってきてください。 【第7～8回の講義・演習時の持参品】 フェイスタオル2本、古い歯ブラシ1本、自身の足の爪を伸ばして参加してください。 本科目を通じて、学生時代から自分の足にあった靴を着用することの意味、正しい靴の選び方と履き方、そして歩行姿勢や足の疲労感への影響を理解していきます。フットプリントに基づいた足部分析法を学び、足を守る靴に関する基礎的な知識と技術を身につけましょう。ケアの対象者である人々の足部の観察方法、特に、足の扁平や胼胝、外反母趾・内反小趾、足趾の異常等とそのケアの基礎知識は、卒業後のあなたに必ず役立つことでしょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間存在と世界観	106	1・2・ 3・4前	選	2単位 30時間	講義	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○江口 建 EGUCHI, Takeru						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問・相談を受け付ける。 メールでの質問・相談は、随時、応対可能（連絡先メールアドレスは、初回授業にて指示）。						
授業の概要						
人間は、長い進化の歴史の中で常に存在の意味や価値を問いかけ、その答えを宗教や理念、文化などのあらゆる面から見つけ出そうとしてきた。その中で個人と世界との関連性に意味を与え、客観的かつ社会的存在としての意識も高まっているが、本講座では、その社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 雑多な情報が氾濫し、善悪の基準が多様化している現代において、倫理観と責任感の意味を理解し、自分のふるまいを批判的に吟味しながら、善悪とは何かを見極める判断力を培うことができる。 2. 仮想空間やデジタルツールが浸透している現代社会において、自己と世界との関係、社会的存在の意義、生命の価値、また、共存、自由、義務、権利といった概念について理解を深めることができる。 3. 多様な視点を獲得することによって、自分の中にある固定化した判断基準を相対化し、偏見に囚われない物の見方を醸成することができる。 4. 表面的な価値観を透かして、物事の根底にある「本質」を洞察する力を身につけることができる。 5. 自分とは異なるものについての理解を深め、他者に対して寛容の精神をもって応答する資質を養うことができる。 6. みずからの動機に基づいて「問いかけ」、その疑問について粘り強く「考え」、その考えを自分の言葉で他者に「伝え」、さらに他者の考えに真摯に「耳を傾け」ようとする対話的姿勢を涵養することができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる」授業科目である。（DP7）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
	<p>価値観が多様化し、命の価値が無条件に信じられない時代において、「道徳的ジレンマ」と呼ばれる幾つかの究極的な思考実験を通じて、哲学的思考力と倫理的判断力を培いながら、<u>他者の命をいかに扱うべきか</u>、また、<u>いかなる条件のもとで倫理が成立するのか</u>を徹底的に見極める。それを通じて、「命」について自問し、自己と社会との関係を見つめながら、倫理的な行動の可能性を探る。</p> <p>■「一人の大切な命」vs.「見知らぬ千人の命」、どちらが大事？</p> <p>私たちが何らかの行動を起こすとき、大別して二つの考え方があり、一つは、「他人のために自分が損をするのは不合理だ」と考える立場であり、もう一つは、「たとえ自分が犠牲になっても、全体の幸福を考えるべきだ」とする立場である。これを、社会心理学や数理経済学では、個人的合理性と集団的合理性という立場で表現する。例えば、満員のエレベーターの中で、「他の人が降りてくれないかな・・・」と無意識のうちに願ったことはないだろうか。友達と旅行の計画を立て、行き先や日程の希望が分かれたとき、自分の都合を優先したいと思うのは自然な欲求である。</p> <p>だが、これが「命」に関わる場合、その行動次第で、あなたの倫理性が鋭く問われる。「大勢」の命を救うためなら、「誰か」が犠牲になってもよいのか。その場合の「誰か」とは、誰なのか。あなたが総理大臣だったら、「自分の家族」の命と「国民全員」の命、どちらを優先するのか。全員が幸せになる道はないのか。命の現場と向き合う仕事に就く前に、一度は本気で考えておきたい。</p> <p>※</p>	講義				

1	ガイダンス	授業の目的 / 哲学的・倫理的に思考するとは？		
2	思考実験①	自分の生存のためなら、他人の命を犠牲にすることも許されるか ——「カルネアデスの舟板」、「登山ロープの緊急避難」		
3		議論と論点整理		
4	思考実験②	犠牲になる命を選べるか——「密室の爆弾」とトリアージ		
5		議論と論点整理		
6	思考実験③	少数の命 vs. 多数の命——「トロッコ問題」、「冷たい方程式」		
7		議論と論点整理		
8		問題の深化——「高架橋問題」		
9	思考実験④	社会的に公平な殺人は存在しうるか——「臓器くじ」		
10		議論と論点整理		
11		社会的正義のための殺人は許されるか（『イキガミ』、『ギフト土』）		
12		崇高な目的のためなら道徳を踏み越えてもよいのか （『罪と罰』、『デスノート』）		
13	思考実験⑤	犬の命より授業が大事か——「教授と犬」		
14		見知らぬ赤子 vs. 患者——「呼び出された外科医」		
15	まとめ	講義全体を通したテーマのまとめと振り返り		
※ 進行状況や受講者の反応に応じて、各回の講義トピックの変更、順序の入れ替え等があります。				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
1. 事前・事後に配布したプリントに十分に目を通して、テーマや問題について正確に理解したうえで、分からない概念や用語があれば、下調べをして授業に臨むこと（1回の授業につき、1.5時間程度の予習が必要）。				
2. その日の授業で扱ったテーマ、議論の内容、学んだこと、気づき、疑問点などについて、丁寧にノートにまとめ、次週の議論にスムーズに参加できるように頭の中を整理したうえで、さらに自分の問題意識を深めること（1回の授業につき、1.5時間程度の復習が必要）。				
※ 自分なりに問題意識を所有して授業に臨んでください。時間のあるときに（自宅で、あるいは登下校の途中などに）絶えず考える習慣を身につけることをお勧めします。普段からアンテナを張り巡らせて、時事的・社会的な問題に敏感になっておくと、レポートを執筆するときに必ず役に立ちます。				
※				
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等				
使用しない。必要に応じてプリント等の資料を配布する。参考文献は、適宜、授業中に紹介する。				
成績評価の方法・基準				
・レポート（70%） ・毎回のリフレクションシート（15%） ・授業参加状況（15%） （積極的な発言、意欲的に取り組む姿勢、他者の発言に耳を傾ける姿勢、授業への貢献度など）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法				
フィードバックとして、定期的のリフレクションシートを返却（または全体共有）する。レポートについては、ルーブリック評価指標に即して、後日、全体的な傾向や特徴、出来具合、改善点などについて全体講評を配布（または掲載）する。質問へのフィードバックは、随時、授業中に行う。				
担当教員からのメッセージ				
※ 授業中は、必要に応じて歴史上の優れた哲学者や倫理学者の考え方を紹介しますが、いわゆる「哲学史」の授業はやりません。哲学の学派や学説、用語を「お勉強」しても、実社会ではあまり役に立たないからです。したがって、この授業では「暗記」を重視しません。「知識」の授受よりも、各自がみずからの動機に応じて自分なりの「問い」を発見し、それについて粘り強く「考える」ことを第一目的としますので、そのつもりで参加してください。「答えが決まっている」問題よりも、「簡単に答えが出ない」問題を一緒に考えてみましょう。				
※ 受講者数の多少にかかわらず、対話しながら授業を進めます。人数が多い場合は、形のうえでは講義形式で授業を進めますが、少人数の場合は、最初から対話型・討論形式にする可能性があります。いずれの場合も積極的な発言を高く評価します。				
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）				

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
宇宙と生命の起源	107	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	水3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坪根 徹 TSUBONE, Toru						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
生命はどのように誕生し、地球環境にどのような形で応答しながら進化してきたのか？本講座では、地球46億年の歴史と生命の発生と進化の連続性について、分子生物学的な視点から生命現象を理解する。また、近年の天文観測では、生命の起源となる地球の生命の構成要素がすべて宇宙に存在することが確認されている。宇宙における生命の起源、進化、伝播、および未来を探求するアストロバイオロジー（宇宙生物学）という新たな知見からも学びを深める。						
到達目標						
宇宙史、地球史の概要をつかみ、その中での現代科学における生物、生命の位置づけを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。（DP2, DP7）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	「宇宙のすがた」 天体観測施設「うすだスタードーム」の紹介と、そこで撮影・作成した豊富な天体写真、資料を使いながら、現代天文学が描き出す宇宙の姿と歴史について概観する。	講義	坪根			
2	「天文と地球環境」 天文観測は地球の大気環境等に大きな影響を受けるため、宇宙の観測と同時に地球環境の観測をしているという側面がある。また天文学の知見は、地球環境を「外から」見るという視点を与えてくれる。天文学と環境学との意外な関わりを紹介する。					
3	「地球史・生命史と宇宙（1）」 現代までに明らかとなった地球史を概観し、その中で起こった生命の大量絶滅などのイベントが、実は宇宙と深い関わりがあったことを概説する。					
4	「地球史・生命史と宇宙（2）」 白亜紀末の大量絶滅など、宇宙起源と考えられているいくつかの地球史イベントと、それによってもたらされた生命史への大きな影響を概説する。					
5	「分子生物学と宇宙」 分子生物学の歴史と内容を概観し、生命の構成要素となる化合物や元素について概説する。また、そうした物質が宇宙で生まれ、宇宙の進化とともに作られてきたものであることを概説する。					

6	「宇宙と生命起源物質」 地球生命の構成要素となる物質が、地球外でも多く発見されている。現代天文学の観測研究によって明らかになってきている、宇宙空間に存在する生命起源物質とその生成過程について概説する。		
7	「アストロバイオロジーとは」 近年、学際的な研究分野として注目を集めているアストロバイオロジー（宇宙生物学）について、その歴史と概要、展望について紹介する。		
8	「生命・人間と宇宙」 これまでの内容を振り返り、生命と地球宇宙が宇宙との関わりの中で生まれ、進化してきたことを総括する。また、地球外生命発見の可能性も含め、人間の生命への理解について、天文学も大きな役割を担っていることを概説する。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習については講義のたびにその内容を指示する。 1回の授業につき2時間程度の復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
特になし。			
成績評価の方法・基準			
レポート 80%、授業参加状況 20%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
授業への積極的参加を望みます。疑問点、知りたい点等あれば、どんどん質問・発言してください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
国際事情と社会貢献	110	1前	選	1単位 15時間	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○駒村 哲 KOMAMURA, Satoshi 東田吉子 TSUKADA, Yoshiko y-tsukada@saku.ac.jp 5号館3階教員室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
駒村：授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
二国間、あるいは多国間における分断・対立と協調の狭間で変動する国際社会の今日的課題を理解する。OECD・WHO・ILOなど様々な分野の活動組織について学び、同時に国際経済情勢などがどのように国際的な活動へ影響を与えるか、また、国際的な社会貢献のあり方について学ぶ。さらに個人、佐久大学・佐久市、JICA等が行っている国際的な社会貢献の実践について学び、国際交流に参加し、国際理解を図る。						
到達目標						
(駒村) 1. 戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。 2. 現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。 3. 他国に生きる人々への理解を深め、コミュニケーション能力を高めることができる。 (東田) 1. 日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。 2. 多様な文化について理解を深める。 3. 日本の看護の国際協力について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、社の広い人間性豊かな教養を身につける」授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	国際関係論とは何か	講義	駒村			
2	国民国家とは何か	〃	〃			
3	国際社会とは何か	〃	〃			
4	第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ	〃	〃			
5	冷戦とは何か	〃	〃			
6	持続可能な開発目標（SDGs）を基本に海外とのつながりを考える	講義	東田			
7	国内外における宗教と文化についてジェンダーや看護へ与える課題を考える	講義	〃			
8	日本の看護、および地域保健における国際協力と国際貢献について知る（サウジアラビア、ナイジェリア、タイ等）	講義/GW	〃			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示する課題について調べておくこと。 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
駒村 テキスト：国際紛争－理論と歴史 原書第10版、有斐閣 東田 テキストは使用せず、講師が資料を配布する 参考文献：国際看護学（看護の実践と統合3）、メヂカルフレンド社 国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして、メディカ出版、他
成績評価の方法・基準
教員2名による総合評価とする。 駒村：筆記試験（60%）、レポート（30%）、授業参加状況（10%） 東田：筆記試験（70%）、授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
駒村：授業時に説明する。 東田：次回の講義時に説明する。
担当教員からのメッセージ
主体的かつ積極的に取り組むこと。他国の事情を知ることは、同時に自国についても学習することであり、視野を広げることができます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
多文化理解	112	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	水3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○芝山 豊 SHIBAYAMA Yutaka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室（遠隔上）で質問を受け付ける。（リアクションペーパー上の質問には翌週の講義で回答する）						
授業の概要						
国家とは異なる文脈で世界の歴史を形づくってきた民族と文化の意味を学ぶ。また、国際的な異文化の理解にとどまらず、あらゆる文化背景を持った人を尊重し、共存していくためにどうしたらよいかを考える。本講義を通して、多文化共生社会の中で異なる文化背景を持った人との円滑なコミュニケーションの方法を実施し、互いを理解・尊重し、共存する体験の機会となることを期待する。						
到達目標						
ホモ・クーランスたる人間の多様な文化を理解するため、文化学の基本的な学知を習得するとともに、現代社会における文化間の諸問題に関する論理的思考と課題発見力を養成し、他者尊重の態度を身につけることを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「ひとと文化の多様性」を学び、「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。」を満たす。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	序論： ケアの文化とホモ・クーランスを考える	講義				
2	文化と文明：「もののけ姫」の世界から考える	講義				
3	言語と思考と文字：ホモ・サピエンスの歴史から考える	講義				
4	人種・民族・国民：幸恵とNAOMIから考える	講義				
5	ステレオタイプとオリエンタリズム：アラジンとムーランから考える	講義				
6	ジェンダー：ハリウッド映画の中の女性とLGBTQ+から考える	講義				
7	歴史認識問題：原爆と少女像とヘイト・スピーチを考える	講義				
8	難民：UNHCRの活動と日本の現実を考える	講義				
9	生業とSDGs：モンゴルと日本の関係から考える	講義				
10	中心と周縁：琉球と日本の関係から考える	講義				
11	発明される伝統と文化盗用：恵方巻とカルフォルニアロールから考える	講義				
12	宗教と国家：フランスと日本の政教分離を考える	講義				
13	震災とパンデミック：自助・共助・公助を考える	講義				
14	文化戦争：ビッグデータとフェイクニュースを考える	講義				
15	まとめ：真の共生社会実現のためにできることを考える	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習として、指示された資料等を読み、疑問や意見をまとめ発表を準備する（2時間）。復習として、講義で言及された書籍や映像作品等にあたり、考察を深める（2時間）。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
講義の際に電子ファイルで資料、文献表等を配布する。						

成績評価の方法・基準
各回のリアクション記録 30% プレゼンテーション 20% 期末最終課題 50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各講義の中で、前回のリアクション記録、プレゼンテーションに対しフィードバックを行い、期末最終課題については、最終回に総評を行う。
担当教員からのメッセージ
ICT活用、感染症対策等の観点から遠隔講義として実施する予定です。講義の中で適宜プレゼンテーションを求めます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
ジェンダー論	113	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
<p>「ジェンダー」は、現在、社会学のみならず多くの学術分野で重要な概念として使用されている。また、「性／性別」に関わるさまざまな社会現象・社会問題について言及する際にも用いられ、マスメディアでも目にする機会が増えてきている。日本は公的・社会的な役割分業、家族などの私人間関係における性役割分業のジェンダー視点での見直し、再構築が、先進国の中で最も遅れている。本講義では日本の現実に触れながら、社会的・文化的・歴史的にみるジェンダーの構築と構造について、基本的概念を日常的な問いから理解する。また、社会および個人の多様な価値観・文化の違いを理解し、ジェンダーをめぐる諸課題を自分自身の生活と関連付けて考え、表現する力を養う。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・生物学的性差とジェンダーの視点についての基礎的知識と考え方を習得し、説明できる。 ・自分の身の回りの物事・現象とジェンダーの知識を結び付けて考えることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。(幅広い教養) (DP2) 生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(倫理規範) (DP7)</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ジェンダーとは	講義	阿部			
2	文化と歴史の中のジェンダー	講義	阿部			
3	自然科学とジェンダー	講義	阿部			
4	スポーツとジェンダー	講義	阿部			
5	労働とジェンダー (1)	講義	阿部			
6	労働とジェンダー (2)	講義	阿部			
7	人権問題とジェンダー	講義	阿部			
8	メディアとジェンダー	講義	阿部			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。(事前学習。目安として1時間) 授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。(事後学習。目安として1時間)</p>						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：特になし。 参考書については授業中に指示する。
成績評価の方法・基準
リアクションペーパーやワークシートの提出 40%、小テスト（2～3回） 20%、最終レポート 40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
担当教員からのメッセージ
みなさんは「ジェンダー」ということばからどんなイメージを連想するでしょうか。ジェンダーという観点から、日常生活や社会の出来事について読み解く視点を身につけていきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
文学	115	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	金5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○松岡 幸司 MATSUOKA, Koji maulwurf●shinshu-u. ac. jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後の時間。それ以外は、随時メールにて。 メールを送る場合は、必ず件名を書き、本文には佐久大学の学生であることと、氏名を必ず記入すること。						
授業の概要						
東洋と西洋の文学における世界観から、モノ・コトの見方を広げる。特に文学の原点である古典文学は、現代においても高い評価を受けるものである。具体的な作品の分析、また、つくられた時代や文化的背景を理解することで、作品の奥深さを考え知ることができる。なお、主題となる文学(作品)の種類は開講年次によって変わる。この科目を通じて、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが期待される。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・「作品との対話」と考えれば、読書という行為は一種のコミュニケーション行為でもある。しかもそれは、作品を通しての「自己理解」にも連動している。このことを理解することが第一の目標である。 ・さらに、「自己理解」を通して、作品という「他者の理解」に取り組む。自己理解の後の他者理解は、コミュニケーションにおける独りよがりな理解を避ける上でも重要な過程である。このことを理解することが第二の目標である。 ・そして、作品（＝他者）を根気よく理解する読書というコミュニケーションの形式を知ることで、自己理解と保健・医療・福祉の場における他者理解に役立てる方法を習得するのが本講義の最終的な到達目標である。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解」を支え、「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな」教養を身につける授業科目である。（DP2）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	「文学」というあいまいな言葉 － 「文学」というあいまいな概念についての理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
2	「読書」という行為に含まれるもの － 「読書」という行為の持つ意味について理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
3	文学の世界 － 文学作品に関わる、あるいは含まれる要素について理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
4	文学とその土壌：例えば「西洋」と「東洋」 － 文学作品と、その作品が書かれた背景との関連について理解を深める。 － 小レポート出題	講義とグループワーク	松岡			
5	日本の文学について － 日本の文学の特徴について概説し、日本人としての感覚の自己理解を進める。	講義とグループワーク	松岡			
6	宮沢賢治の世界（1） － 宮沢賢治について、その背景を知り、作品を読む際の理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
7	宮沢賢治の世界（2） － 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡			
8	宮沢賢治の世界（3） － 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡			
9	宮沢賢治の世界（4） － 宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。 － 小レポート出題	講義とグループワーク	松岡			

10	ヨーロッパ（特にドイツ語圏）の文学について - ヨーロッパ，特にドイツ文学の特徴について概説し，日本との差異を意識しつつ自己理解を進める。	講義とグループワーク	松岡
11	ヘルマン・ヘッセの世界（1） - ヘルマン・ヘッセについて，その背景を知り，作品を読む際の理解を深める。	講義とグループワーク	松岡
12	ヘルマン・ヘッセの世界（2） - ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
13	ヘルマン・ヘッセの世界（3） - ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
14	ヘルマン・ヘッセの世界（4） - ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
15	「文学する」とは？ - 講義全体の内容についてのまとめを行い，各自の理解度をチェックする。 - 期末レポート出題	講義とグループワーク	松岡
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<u>授業後の取り組み</u> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業をふりかえり，自分が学んだことや指定されたテーマについて200～300字程度の文章を書く確認課題に取り組む。その際に，しっかりとメモをとって文章を書き，ちゃんと推敲して提出する。 <u>授業に向けた取り組み</u> <ul style="list-style-type: none"> 指定された事柄について，自分なりの考えをまとめておく。 指定された作品をよく読み，与えられたテーマに関して自分の考えをまとめておく。 <p>上記の内容についてしっかりと取り組んでもらいたい。少なくとも毎週60～90分程度は必要と思われる。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<ul style="list-style-type: none"> 宮沢賢治『注文の多い料理店』角川文庫（ISBN：9784041040010） ヘルマン・ヘッセ（フォルカー・ミヒェルス編，岡田朝雄訳）『庭仕事の愉しみ』草思社文庫（ISBN：9784794207043） <p>毎回の授業はプリント（配布資料）を用いて進む。プリントは事前（遅くとも授業前日まで）にmanabaにアップされるので，各自でプリントアウトして授業に持参するように。</p>			
成績評価の方法・基準			
① 毎回の確認課題 [30%] 毎回の授業で自分が学んだことを「ふりかえる」ために200～300字程度の文章を書く。 ② 学期中に2回課される小レポート [合わせて40%] それまでの授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える。 ③ 期末レポート [30%] 学期全体の授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の確認課題：提出された課題については，採点し，毎回コメントをつけてmanaba上で返却する。受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の確認課題に取り組む際に参考にするように。 小レポート：提出されたレポートについても，採点し，コメントをつけてmanaba上で返却する。受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の小レポートや期末レポートに取り組む際に参考にするように。 			
担当教員からのメッセージ			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
芸術学	116	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○並木 功 NAMIKI, Isao						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
時代を表す芸術が示す多様な思想、価値観、表現力から豊かな感性を育む。絵画や彫刻といった視覚芸術から、音楽、演劇、映画、舞台芸術などの多様な表現法に触れることにより、多様な文化を深く理解する。なお、主題となる芸術の種類は開講年次によって変わる。本講義を通して、芸術に自らの心が動かされる機会、芸術を通して他者や文化を理解する機会となることが期待される。						
到達目標						
美術の社会に対するその役割と重要性を多くの資料を基に学ぶことで有効かつ発展性を持った利用法を構築できることを到達目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。」(DP7)「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。」(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	色彩の基礎知識と表現 「美的形式」 I			講義	並木	
2	色彩の基礎知識と表現 「美的形式」 II			講義	並木	
3	「形と色の心理」 I			講義	並木	
4	「形と色の心理」 II <実習>色面構成・・・提出課題			講義	並木	
5	絵画療法の知識と実践例の学習 ① テキスト使用			講義	並木	
6	絵画療法の知識と実践例の学習 ② テキスト使用			講義	並木	
7	プレゼンテーション（家族画） ① 書画カメラ使用（プレゼン学生）			講義	並木	
8	プレゼンテーション（家族画） ② 書画カメラ使用（プレゼン学生）			講義	並木	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業内容を毎回1時間は復習しておくこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：グレッグ・M・ファース著 『絵が語る秘密』 日本評論社
成績評価の方法・基準
レポート（40%）、プレゼンテーション（30%）、授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート・プレゼンは成績評価後、講義の中で授業資料として扱うことで学生に対しより講義内容の新密度や理解度を深める効果を期待する。
担当教員からのメッセージ
提出物及びレポートは重要な評価対象となります。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
アジア事情	114	1・2・ 3・4 前	選	1単位 15時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○廣橋雅子 HIROHASHI, Masako m-hirohashi@saku.ac.jp 1号館2階1212 李 省翰 LEE, SungHan						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する						
授業の概要						
アジアにおいて経済発展を成し遂げている中国・台湾・韓国に着目し、それぞれの社会・文化・生活について基本的知識を学ぶ授業である。各国の成り立ちや、近代社会の発展過程、そして持続可能なアジア社会を維持するために各国の国民が目指す目標や考え方を学ぶ。異なる国の背景を理解することで、学生の自国との比較が期待され、国際的思考や視野を広げることを目的とする授業である。						
到達目標						
①グローバルな視点からアジアを理解することができる。 ②中国・韓国・台湾それぞれの国の文化・経済・生活に対する具体的な事情を把握することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。(幅広い教養) (DP2) 生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(倫理規範) (DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	中国の現代事情（地域と文化）	講義	廣橋			
2	中国の現代事情（社会と福祉）	講義	廣橋			
3	韓国の現代事情（社会と経済）	講義	李			
4	韓国の現代事情（文化と福祉）	講義	李			
5	韓国と日本の新たな社会問題、そして課題	講義	李			
6	歴史から学ぶ台湾の社会構造	講義	廣橋			
7	他民族多文化共生の台湾が目指すもの	講義	廣橋			
8	まとめ：これからのアジア諸国	講義	廣橋			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
配布する資料や自ら新聞記事、雑誌、書籍から課題資料に関連する情報を収集し、授業時にディスカッションができる準備をしておくこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキストは基本的に指定しない。授業ごとにレジメを配布する。						

成績評価の方法・基準
授業参加への積極性 20% 課題提出 30% 最終試験 50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験やレポートの概況に対するコメントを、一括して、メールで配信する。 個別のコメント等を希望する受講生には、メール又は面談にてコメントを行う。
担当教員からのメッセージ
日本人と異なる文化の背景を形成している要因は何なのか、海外諸国へまずは興味を持つことから学修は始まります。グローバルのメリットやデメリットなども授業を通じて考えることで、学生が自国への意識を高めることに期待します。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
信州・佐久学	121	1前	必	1単位 15時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○市川 正夫 ICHIKAWA, Masao 桜井 達雄 SAKURAI, Tatsuo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
市川：授業に用紙を配布して終了時に回収。次の時間に全体に共有する。 桜井：授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
佐久を中心とした信州の豊かな自然環境と風土、そして歴史や文化、産業、環境問題や社会問題、教育問題、地域の抱える課題など多角的な視点から地域特性を理解する。また、山村・農村地域の風習や特有の暮らし方について理解する。この科目を通じて、長野県、佐久地域を看護や福祉の対象としてとらえ、理解を深める体験をする。さらに、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。オムニバス形式で、歴史、文化等各専門家が講義を行う。						
到達目標						
1. 私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するだけでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をよりよくつくり上げていく気持ちを醸成させる。 2. 地域の自然環境について科学的に探究する手法を身につけるとともに、地域の魅力を見だし、地域の一員としてより良い地域社会をつくり上げていく気持ちの醸成を目指している。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	「県歌 信濃の国」から見た長野県と佐久地方	講義	市川			
2	長野県と東信、佐久地方の地形	講義	市川			
3	長野県と東信、佐久地方の気候	講義	市川			
4	島崎藤村の『千曲川のスケッチ』からみた佐久地方	講義	市川			
5	佐久地方南部の佐久市白田・川上村・南牧村の地誌	講義	市川			
6	佐久地方北部の御牧・浅間山・八ヶ岳・小諸の地誌	講義	市川			
7	長野県の代表的観光リゾート軽井沢と上高地	講義	市川			
8	フォッサマグナに位置する佐久と日本の自然・文化	講義・実験・実習	桜井			
9	佐久の自然環境と災害・恩恵	講義・実験・実習	桜井			
10	佐久の縄文遺跡から ～現代人へのルーツをDNAでたどる～	講義・実験・実習	桜井			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>市川：授業内で周知する。 桜井：講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材について、専門書籍やネット検索などで理解を深めること。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>市川： 『令和版 やさしい長野県の教科書地理』しなのき書房 『千曲川のスケッチ』島崎藤村 新潮文庫 『ふしぎ発見 長野県の地理』しなのき書房</p> <p>桜井：特になし</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>教員2名による総合評価とする。 市川：試験により成績をつける</p> <p>桜井：各講義ごとのはじめに配布するプリントに必要事項を記入して講義終了時提出するレポート（60%）、授業参加状況（40%）</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>市川：授業内で周知する。</p> <p>桜井：各講義ごと、その始めに配布するプリントに必要事項を記入してレポートとして提出する。詳細は講義中に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>市川： 1. 社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。 2. より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。 3. 授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。</p> <p>桜井： 1. 講義で触れる身近な自然題材を直接訪れ、肌で触れる体験を通して興味関心を深めてほしい。 2. 1回の講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材、詳しい専門書籍やネット検索などで理解をより深めてほしい。 (ネット検索には不確かな情報も含まれていることにも留意)</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
消費と経済活動	122	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○平尾 勇 HIRAO, Isamu isamu.hirao●ace.ocn.ne.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎日9時～12時 携帯090-8346-0532						
授業の概要						
<p>人のライフスタイルの変化やグローバル化など社会経済情勢の変化に伴い、経済社会における消費活動の在り方も変わってきている。特に、消費者問題が多様化・複雑化し、新たな形態の消費者問題が発生している中で、現代社会において自立した消費者として必要な基礎的知識や生活するための知識は重要な学習テーマである。</p> <p>本講義では、経済活動の全体像を学ぶとともに、消費活動の内容、家計消費の内容、消費者問題や消費者教育、消費生活情報などを学習し、人間生活の基礎である生産と消費の現代的な仕組みと課題について学ぶ。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。 ・国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。 ・経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。 ・「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。 ・消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。 ・現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。 ・消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。 ・人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や積社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1回	⇒経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。	講義	平尾			
2回	⇒国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。 ※お金の流れを中心にそれぞれの主体の役割を明確にし、図表などで解説する。	講義	平尾			
3回	⇒経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。	講義	平尾			
4回	⇒「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。 ※価格の決め方が一般的にどのような仕組みになっているかについて説明する。	講義、まとめと演習	平尾			
5回	⇒消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。 ※「家計調査」などを用いて、支出の実態を明らかにする。	講義	平尾			
6回	⇒現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。 ※消費者問題の現状を国民生活センターの資料などから説明する。	講義	平尾			
7回	⇒消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。	講義	平尾			

8回	<p>※第6回の消費者問題について事前にどのような教育が必要かを国民生活センターの資料を用いて説明する。</p> <p>⇒人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。</p> <p>※生活にはお金がかかる。お金を豊かな生活を支えるためいかに使うか、将来の消費のためにどのように分配して豊かな将来を確保するについて検討する。</p> <p>※最終回は今までの講義内容を前提として参加者全員でディスカッションを行い、できるだけ実践活動に結び付けたい。</p>	全体のまとめと演習	平尾
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>テキスト「池上彰のやさしい経済学」、参考URL「マンガでわかる経済入門のサイト」及び「国民生活センターのサイト」の該当箇所の予習が必要です。</p> <p>事前学習では該当部分を通読し、理解ができないところをチェックします。この時点ですべてを理解する必要はありません。わからないところを明確にしておくだけで講義での理解が深まります。</p> <p>おおよそ、30分程度の事前学習を目途にしてください。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：池上彰著「しくみがわかる やさしい経済学1」、「ニュースがわかる やさしい経済学2」（日経ビジネス人文庫）</p> <p>参考URL：「マンガでわかる経済入門」 https://manabow.com/hayawakari/</p> <p>参考URL：独立行政法人 国民生活センター http://www.kokusen.go.jp/index.html</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>レポート70%、授業参加状況 30%</p> <p>レポートは今回の講義の中で、今回の講座で学んだことの要約、役立ったこと、疑問に思ったこと、自分の生活で実践していきたいことなどを、文献や資料のコピーではなく、自分の言葉で書くこと。</p> <p>おおよその文字数は3,000字以上4,000字未満、フォントはMS明朝、サイズは10.5で入力してください。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>レポートを提出した全授業参加者の学生にコメントを付して返却します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>個人の消費行動は国全体の経済活動に繋がっています。自分の消費行動を振り返ることで身近なところから経済を考え、豊かな消費生活の実践につなげてもらえばありがたいと思います。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
契約と社会のルール	123	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○関 良徳 SEKI, Yoshinori yosseki●shinshu-u.ac.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
現代社会における法とは何か、法が社会生活でどのような役割を果たしているのかを理解し、国民の基本的人権の保障や社会的弱者の人権保護について学ぶ。民法による家族、契約、物の交換や所有といった日常的な事柄に法が関与することを理解し、生活者に要求される法規範意識を身につける。身近な問題について法の視点からとらえることで、解決への道筋を自ら考える。						
到達目標						
私たちの身のまわりの契約やその他の法律的問題について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	契約（1）：売買契約について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習	関	
2	契約（2）：賃貸借契約について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
3	家族（1）：婚姻制度について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習		
4	家族（2）：育児と介護に関する制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
5	知的財産：知的財産制度について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習		
6	医療訴訟：医療訴訟の制度と課題について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
7	企業と労働（1）：企業制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
8	企業と労働（2）労働に関する法制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。 参考文献：適宜紹介する。						

<p>成績評価の方法・基準</p> <p>筆記試験 (50%) レポート (30%) 授業への取組み状況 (20%)</p>
<p>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法</p> <p>授業時に説明する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)</p>

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ボランティア・住民活動論	120	1後	選	2単位 30時間	講義	金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中嶋智子 NAKAJIMA, Tomoko t-nakajima@saku.ac.jp 1号館3階1319 宮内克代 MIYAUCHI, Katsuyo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後または、下記のメールにて個別に日程調整します。						
授業の概要						
ボランティア活動や地域支援活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際を学ぶ。 とくに社会福祉分野（障がい者・子ども・高齢者など）に限らず、教育・環境・文化・スポーツ・災害など、身近な地域でおこなわれている住民主体の活動に焦点をあてて学修する。						
到達目標						
(1) ボランティア活動の意義と理念がわかる (2) NPO組織とは何かがわかる。またその運営方法や行政との協働のあり方について考えられる。 (3) 市民活動の事業化と実践例について理解できる (4) 企業のCSRの考え方と展開例について理解できる (5) 実際のボランティア活動に関わり、協働の必要性がわかる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス	講義	中嶋			
2	ボランティア活動の理解	講義	中嶋			
3	ボランティアの歴史と法的制度	講義	中嶋			
4	NPOとは何か：NPO組織とその運営	講義	宮内			
5	市民活動の事業化と行政との連携	講義	宮内			
6	企業のCSRの考え方と展開	講義	ゲスト/ 中嶋			
7	子どもの健全育成のための市民活動	講義	宮内			
8	社会福祉の市民活動（障がい者・高齢者）	講義	宮内			
9	災害時のボランティア	講義	中嶋			
10	国際協力や国際ボランティア活動	講義	ゲスト/宮内			
11	ボランティア活動の実践：発案・企画・行動	講義/演習	宮内/中嶋			
12	ボランティア活動の実践：発案・企画・行動	講義/演習	宮内/中嶋			
13	ボランティア実践		中嶋			
14	ボランティア実践		中嶋			
15	ボランティア実践		中嶋			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業テーマに該当するテキストの章を精読し、自分の考えを準備してから授業に望むこと。 1回の授業につき、2時間の予習復習を行うこと。ボランティアへの参加は、各自の履修スケジュールを確認して臨むこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
早瀬昇, 水谷綾, 永井美佳ほか. 市民活動論 [第2版], 大阪ボランティア協会 (2017)						

成績評価の方法・基準
ボランティア計画書30% ボランティア体験レポート50% 授業後のリアクションシート 20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
筆記試験：なし ボランティア活動の体験レポート：あり *提出後、基本レポートは返却しませんが、ご希望があれば個別にコメントを返します。
担当教員からのメッセージ
大学生のうちに、ぜひボランティアを体験しましょう！ すでにボランティアの経験のある方は、新たなボランティア活動をはじめてみましょう。 この授業では、「誰かの役に立ちたい」「よりよい社会をつくりたい」気持ちを応援します。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
個と集団	124	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
社会学の研究対象の範囲は非常に広く、日常生活のなかの人と人との出会いの分析から、世界規模の社会的プロセスの研究にまでおよぶ。本講義はその入門編として、あらゆる社会現象の背後への理解や社会の成り立ち、また、社会の安定性や変化、解体・崩壊などについて学習し、私たちの日常生活の土台となっている社会構造の理解と社会の成り立ちの基礎である個と集団の基本的な視点を学ぶ。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個と集団をめぐる社会学の基本的な視点や概念を理解する。 ・ 自分の身の回りの物事・現象と社会学の知識を結び付けて考えることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。（幅広い教養）（DP2） 生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。（倫理規範）（DP7）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	相互行為・自己（1）			講義	阿部	
2	相互行為・自己（2）			講義	阿部	
3	コミュニケーションと権力（1）			講義	阿部	
4	コミュニケーションと権力（2）			講義	阿部	
5	個人との関係から集団を考える			講義	阿部	
6	集団のメカニズム			講義	阿部	
7	集団としての国家			講義	阿部	
8	まとめ			講義	阿部	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキストは基本的に用いない。 参考書については授業中に指示する。						
成績評価の方法・基準						
リアクションペーパーやワークシートの提出60%、最終レポート40%						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
担当教員からのメッセージ
日常生活の中での私たちのふるまいなどを出発点として、個人と集団の特徴やそのメカニズムを社会学的に理解する視点を身につけていきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
表現技法 I	(A) 140 (B) 141 (C) 142	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 月2 (C) 月3
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○金子光代 KANEKO, Mitsuyo dearyon64●yahoo. co. jp 風早 康恵 KAZAHAYA, Yasue						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
金子/風早：授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。						
授業の概要						
大学で主体的に学ぶ方法の基礎として、聴く、話す、読む、書く、調べるといった基本的な能力を身につける。入門演習では、主体的に学ぶ姿勢、情報の検索、情報の読解や要約、問題の明確化、明瞭かつ論理的に表現することについて学ぶ。この学びを通して、日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら考え、適切に自分の考えを表現することができること、また、日常生活や大学での他の授業、実習、ケアの場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようにすることが期待できる。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なレポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現技法で書くことができる。 2. レポート・論文の書き方の知識を基に、自分の意見を書く能力を培うことができる。 3. レポート・論文での情報探査が適切にできる。 4. レポート・論文を書くために必要な、他の論文や文献等の要約ができる。 5. 自分の心（喜怒哀楽など）を文章（韻文・散文）で表現することができる。 6. 自分の思い（他者への働きかけ・願いなど）を、文章で表現することができる。 7. TPOに応じて、手紙・書類をしたためることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション レポート・論文の基本ルールと剽窃等について知る(Work 1 ①②、Work 2 ①②)。 レポート・論文の構成要素とパラグラフについて学ぶ(Work 1 ③④)。 Worksheet W0201の問いをパラグラフ・ライティングで記述する。	演習	金子			
2	引用の種類と書き方を学ぶ(Work 2 ③④、図表の引用を除く)。 Training T0005、T0009で直接引用のし方を確認する。 文献の情報を的確に抜き出し、言い換える方法を学ぶ(Work 6 ①②③)。 Training W0701で間接引用のための要約のし方を学ぶ。					
3	引用の種類と書き方を学ぶ(Work 2 ③④、図表の引用を除く)。 Training T0006、T0010で間接引用のし方を確認する。 資料(グラフや図)の引用のし方や図表番号の入れ方を学ぶ(Work 6 ④、p 35)。 Training T0008で図の引用を確認する。					
4	さまざまな参考文献リストのスタイルを知り、APAスタイルの書き方を学ぶ(Work 3 ①②、資料①)。 Training W0301で奥付から参考文献リスト(アルファベット順)を作る。 さまざまな要約文の書き方を学ぶ(Work 7 ①②)。 Training W0702で要約とAPAスタイルでの引用の書き方を復習する。 新聞記事の書き方のしくみを知る(資料③)。					
5	課題図書等に対して批判的思考(クリティカルシンキング)をすること学ぶ(Work 8 ① p 51)。批評から意見構築の流れの例を学ぶ(Work 8 ② p 52)。 Training W0702文章例から check W0802で疑問の持ち方を知る。 問いを膨らます方法を学ぶ(Work11②)。					
6	テーマに関する下調べに適した資料を知る(Work10)。「問い」から「予想する答え(仮説)」を立てることを知る(Work12②①)。 情報検索の基本的な方法を知る(Work13)。文献の入手、大学図書館のさまざまな活用法を学ぶ(Work14)。 集めた文献の取捨選択の方法として、「拾い読み」「探し読み」を知り、書籍の「目次」「はじめに」「おわりに」「奥付」等の読み方を学ぶ(Work15)。「索引」「謝辞」について確認する。 入手した文献のリストとメモや現物の整理を知る(Work16)。論点をしぼり、自分の主張を導くことを学ぶ(Work17)。論文の骨子、仮タイトルを考える(Work18)。 根拠をもとにアウトラインをつくり、序論を書くことを学ぶ(Work19)。					

7	ブックレポート・論文・報告レポートの書き方を知る (Work4、文章例①②③)。事実と意見を区別し、論理的な表現を知る (Work9)。Training T0002 で体験談を間接引用で適切に書き言葉に直して伝える練習をする。	演習	風早		
8	平仮名と漢字の表記、あいまい文、「名詞」と「動詞を使った表現」、漢字の割合、口語的な表現、一文一意など文章の推敲、提出前の再確認を学ぶ (Work20)。結論を書くときの注意点を知る。Training T0003、T0004 を p58～60 を参考に、書き直して確認する。授業概要・授業の流れについての説明。授業に期待する点について聞き取りを行う。				
9	・なぜ、詩歌から学ぶのか ・語彙の備蓄を大きく一多様な表現のために喜びを表現する—記紀歌謡・勅撰和歌集・近現代の詩歌等を参考に				
10	・自らの喜びを表現する　・他者の喜びに共感する 悲しみを表現する				
11	・自らの悲しみを表現する　・他者の悲しみに寄り添う 愛を表現する—相聞の詩歌から				
12	・愛を表現するにあたって、技法は決して不在ではない ・愛に相反する、ネガティブな思いをどう表現するか 手紙をしたためる—『日本—短い家族への手紙』を参考に				
13	・宛てる人に応じて、手紙のしたため方を学ぶ ・自分の「思い」を、過不足なく伝えるために 書類を作成する				
14	・履歴書・報告書等の整え方 平安時代の手法で、手紙をしたためてみる				
15	・「結び文」を受講者全員が体験する。 各自、自分が文を捧げる人物を選び、和紙・筆・墨 (墨汁) を用いて文を整え、季節の花の小枝に結んで持ち帰る。 ・「文房四宝」についても簡単に説明する。				
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを常に磨いてください。 なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。					
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等					
金子：テキスト：桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版 2015 参考文献：木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社 1981 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社 2009 石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 2011 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社2012 その他 授業内で適宜紹介する。 風早：授業時に講師が作成した資料、コピー等を配布する。参考となる書籍等は、同じく授業時に推薦する。					
成績評価の方法・基準					
教員2名による総合評価とする。 金子：筆記試験 (50%)、授業参加状況 (ワーク)・提出物 (50%)　風早：レポート (60%)、授業参加状況 (40%)					
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法					
金子：試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。 風早：授業時に説明する。					
担当教員からのメッセージ					
金子：大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれませんが。「レポート・論文の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。そして、客観的な根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく伝える・書くという表現技法を、これからの大学の学びの中でさらに深めていってください。 風早：自分の心、思いを文字に表現することは、思考や感情を整理するよすがとなります。加えて、表現というフィルターを通して自らを客観的に再認識することにより、たとえネガティブな感情であっても、ネガティブなままに終わらず、未来への活力へと変えてゆけると信じます。のびのびとした感性を、表現という器に盛ってゆく技法を一緒に学びたいと思います。また、メールでのやり取りが主流となりつつある現在であるからこそ、手紙・書類のしたため方を学んでおくことは、就職・仕事などの多くの局面で、皆さんの力になると考えます。					
実務経験のある教員等による授業科目 (実務経験と当該授業科目との関連)					

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
野外活動論	125	1・2・ 3・4前	選	1単位 15時間	講義	水4, 水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
伊藤 光太郎 ITO Kotaro info●dol-camp.org						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に授業会場で質問を受け付ける。 随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
野外活動論では、自然環境と人との共生関係を知り、ヒューマンケアを学ぶ人材として環境共生社会構築に貢献できる意識を醸成する。そのために、野外活動（キャンプ、登山、スキー・スノーボード等）に必要な基本的知識（関連用語、社会的意義・必要性、用具の使用法、効果的な指導方法等）や、活動に伴う危険及びそれに対する適切な対処方法について学習する。本講座により、野外活動に関わる基本的知識の習得や野外活動指導者に求められる資質や役割への理解、野外活動に伴うリスクマネジメントのスキルの習得が期待できる。						
到達目標						
① 野外活動の楽しさを体感する。 ② ①を通して、指導者・支援者として野外活動またキャンプにたずさわる場合（引率や同行などをする場合）の要点を学ぶ。 ③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した野外活動の技術を得る。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るために他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1回	野外ゲーム&キャンプひろばづくり（かまど）&薪割り 授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、薪割り、火おこしのデモなどを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。	演習	伊藤			
2回	火おこし&かんたん野外料理（&テーブルづくり） 火おこしと火の安全、その火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。	演習	伊藤			
3回	刃物・道具を学ぶ&クラフト&焚火スイーツ ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。	演習	伊藤			
4回	キャンプファイアー&キャンプ広場片付け フィールドの片づけをし、キャンプファイアーでしめくくる。	演習	伊藤			
予備	雨天時は基本的に屋内で理論部分を学ぶが、雨天が重なった場合のために予備日程を用意している。					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
① 使用用具や授業環境を整える授業準備から撤収にできる限り参加する。(30～45分)						
② 屋外での授業に安全に参加できるよう、装備や服装をしっかりと想定し準備する。(10～20分)						
③ 授業で配布した資料を再読し、授業での実技を振り返り自身の行動また技術を自己評価する(30～60分)						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
特になし。授業内容の補足で講師が作成した動画視聴があり得る。 https://www.youtube.com/channel/UC1T3Xg52uz01twJeX90iJFA						
成績評価の方法・基準						
授業参加状況（リアクションフォームへの評価含む） 50% レポート試験 50%（終講試験はレポート試験を予定）						

<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションフォームへは、必要に応じて返信をする。 レポート試験は返却しないが、レポートに対する評価・講評をリスト化して配布する。または、動画によるフィードバックが有効と判断したものは動画配信することを検討。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>☆自己負担金1人3～5千円程度が必要です 資材や食材のレンタル・購入が必要になります。費用の確定は受講人数にもよるので、開講と同時にお伝えします。</p> <p>◎愉快地 野外活動は愉快でありたいです。チャレンジに満ちた体験型で、災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含んだアウトドア実技・演習中心に授業を進めます。野外活動の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全（野外におけるリスクマネジメント）・支援者の役割を学んでください。</p> <p>◎確実に キャンパス内にカマドを作り、薪をつくり、野外料理をするなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に体得しましょう。晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得ます。また、キャンパス内の資源（剪定木やリサイクル可能資源）を活用します。</p> <p>◎野外での指導・支援の機会は必ずある どの学生にもいつかきっとアウトドアでの支援活動の機会が待っているはずです。この授業で基本的な技術を身に付けておくことは今後役に立ちます。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装は動きやすい服・軍手・帽子・飲み物・虫や紫外線対策などを各自用意してください。 ・雨天時は体育館で理論部分や屋内レクリエーションほかを実施します。 ・授業前後に時間のある学生は学びを深めるために、授業前の準備・授業後の撤収（予習復習にもなる）にもぜひ参加してください。
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
入門演習	600	1前	必	2単位 30時間	演習	火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○野口定久 NOGUCHI, Sadahisa 下村幸仁 SHIMOMURA, Yukihito 関谷龍子 SEKIYA, Rune 島田千穂 SHIMADA, Chiho 林 宏二 HAYASHI, Koji 上西一貴 JONISHI, Kazuki						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内で指示する。						
授業の概要						
大学で主体的に学ぶ姿勢、および学修の基本技術(聴く、話す、読む、書く、調べる)を身につける。入門演習では、高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的に、小グループで保健・医療・福祉に関する疑問を立て、グループ内でのプレゼンテーションやディスカッションを通じて意見をまとめ、全体でプレゼンテーションを行う。このような学習を通して、学習活動に必要な基本的な学習技術の習得や専門教育における学習目標を設定するための動機づけにつながることが期待できる。各グループに分かれて進める。						
到達目標						
①大学で学ぶための基本的な学習技術の重要性と必要性に気付く。 ②ディベートができ、他人と生産的な熟議ができる。 ③自分なりの研究テーマを立ててプレゼンテーションができる。 ④文献等を批判的に読解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(倫理規範) (DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	大学で学ぶとは：学ぶことの意味とアクティブ・ラーニング	演習	全教員			
2	学修文献とは何か：文献検索の仕方と文献指定	演習	全教員			
3	読後感想のプレゼンテーション	演習	全教員			
4	ディベート	演習	全教員			
5	文献講読1	演習	全教員			
6	文献講読2	演習	全教員			
7	プレゼンテーション	演習	全教員			
8	ディベート⇒小レポート	演習	全教員			
9	グループ（小クラス）ごとの課題（研究テーマ）の設定	演習	全教員			
10	役割分担にもとづく作業と討議1	演習	全教員			
11	役割分担にもとづく作業と討議2	演習	全教員			
12	役割分担にもとづく作業と討議3	演習	全教員			
13	役割分担にもとづく作業と討議4	演習	全教員			
14	プレゼンディベート資料作成	演習	全教員			
15	学年全体でのプレゼンテーション（全教員によるグループ評価）	演習	全教員			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
①基本文献の事前学習（要点のまとめ、論点整理、感想） ②ディベートのための各自の論点整理とディベート後の振り返り・まとめ						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
授業で使用する文献を事前配布または周知
成績評価の方法・基準
ディベートの発言20%、小レポート提出20%、プレゼンテーション20%、最終レポート40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出されたレポートにコメントを入れて個別返却します。
担当教員からのメッセージ
自分の役割とグループ内の学生の役割をチームで達成し互いに学びあいましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
CBL実習 I	601	1前	必	2単位 90時間	実習	火4, 火5 金3, 金4
担当教員（○印=科目責任教員）						
○野口定久（NOGUCHI, Sadahisa） 関谷龍子（SEKIYA, Rune） 李 省翰（LEE, SungHan） 阿部友香（ABE, Yuka） 上西一貴（JONISHI, Kazuki）						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内で周知する。						
授業の概要						
<p>本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域の暮らしに触れ、住民と継続的な交流をすることで多様な価値観を理解することである。また、学修者自らも、地域の生活者であることを自覚し、地域が抱える社会問題や個人の生活経験への関心や意識を高める。長野県にある公民館の数は、日本一多くその歴史も古い。地域に根付いたコミュニティ拠点からみえる「地域が抱える社会的課題」についてグループでまとめ、全体で発表することにより学びを共有する。</p> <p>*CBL(Community-Based Learning)とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと</p>						
到達目標						
<p>(1) 地域（地区）の特性、概要がわかる。 (2) 住民との関わりを通じて、地域の生活文化に関心が持てる。 (3) 地域（地区）の風土、特有の価値観が理解できる。 (4) わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について理解できる。 (5) 地域が抱える社会課題について考えられる。 (6) 自分自身が地域の生活者であることを自覚できる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るために他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス	演習	全教員			
2-4	<事前学習> ① 担当地域（地区）について、地域の特性、概要を調べる。 ② わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について事前学習する。 ③ 担当地域（地区）の特性に応じた実習方法についてグループで検討する。 ④ 参画する公民館活動を決めて、実習計画を立てる。 ⑤ 自己の実習目標を明確にする。	演習	全教員			
5	実習期間中の礼儀、マナー、文化的尊重等についての心構え	演習	全教員			
6-7	実習する地域（地区）の見学 （活動例） ・地域（地区）オリエンテーション ・地域の現状について行政の担当職員よりオリエンテーションを受ける。 ・実習する地域の周辺を歩いて見聞する。 ・地域特有の自然環境・社会文化・歴史の把握を行う。	実習	全教員			

8-13	<p>まちなか実習（公民館活動への参加） （活動例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動する公民館の館長講話 ・各活動代表者との対話（活動経緯や思いの理解） ・特定の公民館活動に参加し、地域住民との交流を図る。 ・地域住民の生活文化様式や価値観を理解する。 ・地域が抱える社会的課題についての情報を得る。 	実習	全教員
14	事前情報やまちなか実習で得られた情報から、地域の特徴、課題、ニーズを検討し、地域の抱える課題と今後の展望を明らかにする。	演習	全教員
15	<p>まちなか実習のまとめ(全体プレゼンテーション) 実習全体を通して得られたことを整理し、学びをまとめる。</p> <p>【主な実習場所】 佐久市内7地区にある公民館（中央公民館、浅間公民館・野沢公民館・中込公民館・東公民館・白田公民館・浅科公民館・望月公民館）うち、今年度は5か所の公民館における住民活動に参加する。</p> <p>【実習方法】 実習を行う公民館毎にグループを作る(1グループ最大15名程度)。履修生が参加する活動(実習)は、履修生の空きコマで参加可能なものを調整する。 参加する活動および活動日程によって、1つまたは複数の活動に参加する。</p> <p>【実習期間】 前期授業期間内の履修生の空き時間を使用して実施する。参加する活動の都合により、夜間や土日を実施する場合があること、事前学習期間に実施する場合があることに留意する。</p> <p>※詳細は1回目のコースガイダンス時の配布資料を参照すること</p>	演習	全教員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>公民館活動への参加したのち、フィールドレポートとして振り返り（省察）を行うこと。 実習事前学習および実習事後学習については、主にグループでの作業を行います。それぞれの授業回で必要な作業は事前に確認し、各自で準備を進め授業に臨んでください(毎回1時間程度)</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキストは指定しない。 授業中に参考資料を提示する。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>まちなか実習への積極的な参加 50% 事前課題 20% レポート評価 30%</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>実習期間内において、担当する教員が適時に個別で対応する。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>地域の人々の活動に目を向け、生活者として自らの立場を理解できるようにしましょう。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
CBL実習 II	602	1通	選	1単位 45時間	実習	(前) 火4, 火5 金3, 金4 (後) 金3~5
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○野口定久 (NOGUCHI, Sadahisa) 関谷龍子 (SEKIYA, Rune) 李 省翰 (LEE, SungHan) 阿部友香 (ABE, Yuka) 上西一貴 (JONISHI, Kazuki) 中嶋智子 (NAKAJIMA, Tomoko)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内で周知する。						
授業の概要						
<p>本実習の目的は、地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のひとと触れあい、社会的土壌をつくる多様な価値観を理解することである。互酬性（互惠性）の規範、社会的つながりは、地域固有なものといえる。フィールドワークや農村民泊等での生活体験を通じて、個人の生活体験や価値観を直接見聞きしながら、地域が抱える複雑な社会的課題を再発見する。さらには、実習経験をもとに、よりよい地域社会のありかたについて問い続ける姿勢と、実践力を養う実習である。（予定の自治体：長野県飯田市、川上村、小海町、青木村、小諸市など）</p> <p>*CBL (Community-Based Learning) とは、学修者が地域の社会活動に入り込み、住民と相互的な関係性を構築しながら、自らの実体験を省察する学習活動のこと</p>						
到達目標						
<p>(1) 対象地域について、地域（地区）の特性、概要がわかる</p> <p>(2) 地域でのくらし方や多様な生活文化が体験できる。</p> <p>(3) 市民活動や地域の経済活動から地域が抱える複雑な社会的課題がわかる。</p> <p>(4) 社会的つながりと住民主体のまちづくりの重要性がわかる。</p> <p>(5) 地域が抱える社会課題について、自らの関心を強めることができる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生命と心身を守るために他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。(DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス 実習方法の説明 実習期間中の礼儀、マナー、文化的尊重等についての心構え	実習	全教員			
2	<事前学習課題> ①対象地域について、地域の特性、概要を調べる。 ②対象地域の主たる産業や市民活動について調査する。 ③自己の実習課題を明確にする。	実習	全教員			
3-13	フィールドスタディと農村地域での民泊体験 【参考プログラム：A市】 ・全体講義： A市の特徴、ソーシャルキャピタル概論、住民自治と協働のまちづくり ・ワークショップ1：市民活動からソーシャルキャピタルを考える ・ワークショップ2：公民館主事との意見交換会 ・フィールド調査場所：社会福祉法人、株式会社、異業種間連携事業者、	実習	全教員			
14	地域貢献事業者等 ・全体発表会（現地まとめ） ・農村民泊と生活文化体験	実習	全教員			

15	<p>学内まとめ</p> <p>【主な実習場所】 長野県飯田市、川上村、小海町、青木村、小諸市などを想定。各自治体内の特定の地区において実習を行う。</p> <p>【実習方法】 実習自治体または実習地区毎にグループを作り(1グループは4名程度)、グループ単位で実習地域毎に設定した実習プログラムを体験する。主に実習地域内を巡るフィールドワークの他、地域活動や文化活動への参加、地域住民との交流やインタビューを通して、実習プログラムの学びを深める。 また学内まとめとは別に、実習地域内での実習成果報告会を実施することもある。</p> <p>【実習期間】 夏季休暇期間等の講義設定がない日程において、2泊3日を基本に実施する。</p> <p>※詳細は1回目のコースガイダンス時の配布資料および説明を参照すること</p>	実習	全教員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>具体的な事前学習課題は、授業内で周知する。</p> <p>実習中に学びについては、フィールドノートの作成をもとに、体験した内容を丁寧に振り返る（省察）こと。</p> <p>実習事前学習および実習事後学習については、主にグループでの作業を行う。それぞれの授業回で必要な作業は事前に確認し、各自で準備を進め授業に臨むこと(毎回1時間程度)</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキストは指定しない。</p> <p>参考書：佐藤郁哉. フィールドワーク- 書を持って街へ出よう- 増訂版, 新曜社 (2006) ほか、適時、提示する。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>実習への主体的な参加度 30%</p> <p>フィールドノート 50%</p> <p>課題レポート 20%</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>レポートへのコメントと個人面談でおこなう。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>日ごろから地域の人々と交流を深めてみましょう。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
コンピュータの基礎演習	(A) 130 (B) 131	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) 木3 (B) 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○三池 克明 MIIKE Katsuaki 1号館3階1327						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
月曜日～木曜日、9:00～18:00 ただし会議、出張等で不在あり。事前予約は不要です。						
授業の概要						
大学生生活に必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。						
到達目標						
パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、本学での大学生生活に必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	学内ネットワークの使用方法和大学メールの使い方	講義・演習	三池			
2	情報のデジタル化とインターネット	講義・演習				
3	情報セキュリティと情報倫理	講義・演習				
4	ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力	講義・演習				
5	ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工	講義・演習				
6	ワープロソフトを使った文書作成3：文書デザイン	講義・演習				
7	ワープロソフトを使った文書作成4：ビジネス文書の作成	講義・演習				
8	表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力	講義・演習				
9	表計算ソフトを使った統計処理2：表計算	講義・演習				
10	表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画	講義・演習				
11	表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用	講義・演習				
12	パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン	講義・演習				
13	パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション	講義・演習				
14	パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作	講義・演習				
15	パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出	講義・演習				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキストの次回授業に関連するところを熟読し、何が分からないか明らかにしておくこと。 復習：テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。 なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：奥村晴彦、森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社						
成績評価の方法・基準						
授業終了時に提出するコメントシート（30%） 課題作成（70%）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
原則としてLMS（manaba）を用いる。詳細は授業時に説明する。						

担当教員からのメッセージ

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

DTP制作・研修指導の請負を年数回程度、16年継続。この経験をベースに情報機器をフル活用し短時間で仕上げられる表現方法を解説する。

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
英語 I	(A) 145 (B) 146 (C) 147	1前	必	1単位 30時間	演習	(A)月2 (B)月3 (C)火2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	- Class introduction. Unit 1 Risk for Injury			演習	Mark	
2	- Unit 1 practice, activation, completion					
3	- Unit 2: Self Care Deficit					
4	- Unit 2 practice, activation, completion					
5	- Unit 3: Respiratory Disorders					
6	- Unit 3 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 4: Fluid Volume Deficit					
10	- Unit 4 practice, activation, completion					
11	- Unit 5: Insomnia					
12	- Unit 5 practice, activation, completion					
13	- Unit 6: Chronic Pain					
14	- Unit 6 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
英語Ⅱ	(A) 148 (B) 149	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) : 火1 (B) : 火2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	- Unit 7: Dietary Practice	演習	Mark			
2	- Unit 7 practice, activation, completion					
3	- Unit 8: Urinary Retention					
4	- Unit 8 practice, activation, completion					
5	- Unit 9: Constipation					
6	- Unit 9 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 11: Impaired Skin Integrity					
10	- Unit 11 practice, activation, completion					
11	- Unit 14: Memory Impairment					
12	- Unit 14 practice, activation, completion					
13	- Unit 10: Impaired Physical Mobility					
14	- Unit 10 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：Text1 杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
中国語 I	150	1・2・ 3・4前	選	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朱藝虹 ZHU, Yihong						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき						
授業の概要						
初心者のための中国語授業である。中国語には4つの音の変化があり、地域で使用されている方言もあることなど、言語的基礎知識も学べる。前半では中国語の発音で重要なローマ字表記によるピンインを習得したうえで、数字や自己紹介などの表現方法を身に着ける。15回の授業のなかで簡単な挨拶会話ができることを目標とする						
到達目標						
中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（中国語発音ローマ字、声調、発音規則）がわかり、読める。簡単な自己紹介ができ、次のステップへの土台を築くことを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。（DP2）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1回：	ガイダンス：①計画説明；②中国、中国語について簡単に紹介			いずれも講義・演習	朱藝虹	
2回：	単母音、声調					
3回：	子音①（唇音、舌尖音）					
4回：	子音②（舌根音、舌面音）					
5回：	子音③（舌歯音、そり舌音）					
6回：	複合母音①					
7回：	複合母音②、前鼻母音					
8回：	後鼻母音					
9回：	ピンイン規則のまとめ					
10回：	名前の読み・自己紹介					
11回：	自己紹介の発表					
12回：	覚えておきたい表現					
13回：	第1課（挨拶する）（テキスト12ページ～）					
14回：	会話の授業					
15回：	総合復習					
※授業内容は必要に応じて変更することがあります						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<ul style="list-style-type: none"> ・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・必要な時間：個人差により、毎日5～20分位 						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社						
成績評価の方法・基準						
定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」平常点「20%」						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・方法：授業毎に課題について説明があり、それに従ってください。 						

担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。・授業中は積極的に参加、発言をしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
中国語Ⅱ	151	1・2・ 3・4後	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朱藝虹 ZHU, Yihong						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき						
授業の概要						
中国・台湾からの留学生・研修生との交流で利用できる易しい会話を中心に授業を展開する。生活に密着した中国語会話や中国文化と日本文化の比較を取り入れることで学習意欲を持ち続けられる。実践的かつインタラクティブな会話能力や書く能力を更に身に着けることができる。						
到達目標						
発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単なインタラクティブな会話能力や書く能力を身に着けることを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。（DP2）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1回：	第2課（名前を尋ねる）	いずれも講義・演習	朱藝虹 Zhuyihong			
2回：	テキストに基づき実用な会話演習（下記「会話演習」と略す）					
3回：	第3課（食べたいものを尋ねる）					
4回：	会話演習					
5回：	第4課（近況を尋ねる）					
6回：	会話演習・「時間外自習指導：復習1」					
7回：	第5課（予定を尋ねる）					
8回：	第5課（予定を尋ねる）					
9回：	会話演習					
10回：	第6課（場所を尋ねる）					
11回：	会話演習					
12回：	DVD（リラックスで中国文化を味わう）					
13回：	第7課（注文する）					
14回：	会話演習					
15回：	総合復習					
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・ 課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）						
・ 必要な時間：個人差により、毎日10～30分位						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社						
成績評価の方法・基準						
定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」平常点「20%」						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none">・ 課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）・ 方法：授業毎に課題について説明があり、それに従ってください。
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・ 予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。・ 授業中は積極的に参加、発言をしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
韓国語 I	152	1・2・ 3・4前	選	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける 授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける						
授業の概要						
初心者のための韓国語講義である。体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語 I では、基本的な韓国語の発音と語彙、類型を中心に学習する。15回の授業のなかで簡単な挨拶・会話ができることを目標に取り組む。						
到達目標						
韓国語の発音や文法などを学習し、日常会話で使う簡単な会話を学ぶことで韓国語の面白さを身に付けていく。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他	講義	朴 他			
2	韓国語の基礎①：ハングル反切表や発音などについて学ぶ					
3	韓国語の基礎②：ハングル反切表や発音などについて学ぶ					
4	韓国語の基礎③：韓国語のバッチムや基本構造などについて学ぶ					
5	韓国語の基礎④：韓国語の基礎単語などについて学ぶ					
6	韓国語の基礎⑤：韓国語の基礎単語、表現などについて学ぶ					
7	韓国語の基礎⑥：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
8	韓国語の基礎⑦：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
9	韓国語の基礎⑧：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
10	韓国語の基礎⑨：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
11	韓国語の基礎⑩：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
12	韓国語の基礎⑪：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
13	韓国語の基礎⑫：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
14	韓国語の基礎⑬：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
15	韓国語の基礎⑭：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：できる韓国語初級 I（新装版）、アスク出版						

成績評価の方法・基準
レポート（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
韓国語を使ったグループワークの時間がありますので、積極的に参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
韓国語Ⅱ	153	1・2・ 3・4後	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける 授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける						
授業の概要						
韓国語講義では、体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰの学習内容よりからさらに多様な語彙、類型を中心に学習する。言葉と関連して、韓国の文化などについても紹介しながら授業を進めていく。						
到達目標						
韓国の実生活で使う一般的な日常会話を学び、その学習により韓国社会の文化や社会について理解を深める。また、将来韓国文化に触れる機会があることを想定し、コミュニケーションスキルを身に付けていく。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養」を身につける授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他	講義	朴 他			
2	韓国語の応用①：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
3	韓国語の応用②：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
4	韓国語の応用③：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
5	韓国語の応用④：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
6	韓国語の応用⑤：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
7	韓国語の応用⑥：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
8	韓国語の応用⑦：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
9	韓国語の応用⑧：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
10	韓国語の応用⑨：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
11	韓国語の応用⑩：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
12	韓国語の応用⑪：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
13	韓国語の応用⑫：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
14	韓国語の応用⑬：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
15	韓国語の応用⑭：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：できる韓国語中級Ⅰ（改訂版），アスク出版						
成績評価の方法・基準						
レポート（70%） 授業参加状況（30%）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
韓国語を使ったグループワークの時間がありますので、積極的に参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ヒューマンケア概論 I	610	1後	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○青木 紀 AOKI, Osamu						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
<p>ライフサイクルの「依存とケア」の視点から、動物社会との対比を踏まえつつ、人間社会のケアの特徴をまず理解する。ついでケア行為をめぐる受け手と与え手の関係性の構造を諸側面（二者関係、関係性の転換志向、専門職間関係など）から検討する。最後に関連する制度及び政策をケアレジーム論とともに概観する。ただし、この部分の詳細はヒューマンケア概論Ⅱで展開される。初年次学生が現代社会におけるケア関連専門職の位置づけと役割を考えていく契機となる講義である。</p>						
到達目標						
<p>当該科目は、初年次学生を対象にした人間福祉学部及び看護学部の理念や目的の根幹にかかわる講義である。したがって、上記のような幅広い講義内容から、学生一人ひとりがヒューマンケアの学びの「おもしろさ」を感じ、関連する基礎的な諸概念を理解し、主体的な学びの動機を強化することをめざす。同時に卒業後、それぞれが就くであろうケア関連専門職の社会的役割—そこではケア専門職間等の連携の重要性も意識しながら—を考える機会の出発点とする。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。（ケアの専門知識）（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	依存とライフサイクル—ヒトの特徴—	講義	青木			
2	依存を支えケアを補完する社会—ヒト集団における共感の役割—	講義	青木			
3	ライフサイクルの葛藤と調整—基本視点の提示—	講義	青木			
4	自立と「依存の否定」—基本視点からの展開（1）—	講義	青木			
5	自立志向と「依存の理解」—基本視点からの展開（2）—	講義	青木			
6	自立と依存のパラドックス—基本視点からの展開（3）—	講義	青木			
7	ジェネレイショナル・ケアの内部依存—ライフサイクルの不安定のなかで—	講義	青木			
8	ジェネレイショナル・ケアの外部依存—ライフサイクルの「安定」のなかで—	講義	青木			
9	多様なケア論とその生成基盤	講義	青木			
10	ケアの二者関係の分析（1）—モデル構造の純化と分節化—	講義	青木			
11	ケアの二者関係の分析（2—1）—関係の変化志向—	講義	青木			
12	ケアの二者関係の分析（2—2）—インフォームド・コンセント—	講義	青木			
13	ケアの二者関係の分析（3）—「生活世界」「現象学」への依拠—	講義	青木			
14	多様な二者関係の重なりとしてのケア—拡大する関係性—	講義	青木			
15	小括と補論—疑問に答えながら、ヒューマンケア概論Ⅱを展望する—	講義	青木			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>各回の授業に関連して、参考となる学術文献だけでなく、広く雑誌、新聞記事、小説、TVドキュメンタリー、映画等も紹介することから、授業時間外学習としてそれらの「学び」を楽しむことを期待する。そのうえで、各自の学びを参考に、学習レポートの提出（期間内2回）を求める。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>参考文献について 青木紀『ケア専門職養成教育の研究』明石書店、2017年、などがあるが、その他のものについては、必要に応じて授業内で適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業時間外学習のレポート（上記）に加えて、学期末の課題レポート（1回）を提出し、評価する。その評価基準は、時間外学習レポートは積極性とオリジナル性、学期末の課題レポートは与えられた課題の理解と論理的記述性さらに独創性などを中心に判定する。比率は授業時間外学習レポート50%、学期末課題レポート50%とする。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>時間外学習レポートは授業時間内にフィードバックする。ただし、学期末レポートは教務係におく。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>基本的なことをしっかり学び、通説を知ること大事だが、視点を少しずらす、あるいは反転させるだけで別世界が見えてくることもある。そんな学び方を感じ取り、自らの学びの姿勢とすることを期待する。とくに、人間もまた動物であるという視点のおもしろさや、それゆえ対比したときの人間社会の「すごさ」も学んでほしい。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生命倫理	162	1後	必	2単位 30時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○盛岡正博 MORIOKA, Masahiro 廣瀬 健 HIROSE, Ken						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。（廣瀬・盛岡） 執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている時、随時相談を受けます。						
授業の概要						
本講座では、生命の尊厳と人間尊重の精神を理解するために、生命に関する倫理原則を多方面での角度から具体的な例を検討しながら学修を行う。その学びの中で、社会背景や歴史、または人間文化のみならず、社会環境によって多様な形で変化して行く価値観の違いや考え方の相違についても確認する。これらの教育は、生命の価値への理解を深め、医療に携わる専門職としての行動基盤を築く機会として意義がある。						
到達目標						
1. 直面した個々の事例に誠実に対応することの大切さを知る。 2. 病気や障害により医療や福祉の支援を必要とする者に具体的な対応を考える。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性構築の大切さを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	はじめに～生命倫理学の歴史的背景	講義	盛岡, 廣瀬			
2	生命誕生と医学の介入① ～人工授精、体外受精など	〃	〃			
3	生命誕生と医学の介入② ～再生医療、iPS細胞の可能性と課題	〃	〃			
4	生を絶つことへの医学の介入① ～人工妊娠中絶、女性の自己決定権	〃	〃			
5	生を絶つことへの医学の介入② ～選別出産、減数手術など	〃	〃			
6	死への医学の介入① ～死とは、脳死と臓器移植問題	〃	〃			
7	生と死のケア① ～訪問看護、在宅診療の現場から	〃	特別講師			
8	死への医学の介入② ～自死、殺人、安楽死について	〃	盛岡, 廣瀬			
9	死への医学の介入③ ～安楽死、尊厳死、医療と宗教	〃	〃			
10	生と死のケア② ～ターミナル・ケアについて	〃	〃			
11	生と死のケア③ ～死の受容について	〃	〃			
12	インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパターナリズム	〃	〃			
13	がんを生きるということ	〃	〃			
14	認知症における生命倫理の視点	〃	〃			
15	まとめ ～生命が平等足りうる社会か	〃	〃			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。 講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：塩野寛・清水恵子『生命倫理への招待』南山堂 参考書や参考論文は、講義進行に合わせて提示します。
成績評価の方法・基準
1. 授業参加状況 60% 講義終了後にリアクション・ペーパーの記述内容を評価する。 2. レポート課題 40% 課題を提起して、生命倫理的考察のレポート作成による評価を行う。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
提出されたレポートやリアクション・ペーパーは、前期終了後に本人に返却する。
担当教員からのメッセージ
・覚える学問でなく、思索を楽しんでください。 ・自分探しの時間にしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
佐久の医療とケアの歴史	161	1前	必	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階204						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・原則、授業日の授業終了から放課後 ・質問は、メールでもよい（常時） ・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である 						
授業の概要						
<p>人々の行動や健康は、周囲の社会環境の影響を受けていることが研究で明らかにされている。佐久地域では、医療機関と住民が協働し、地域医療に取り組んできた。それは人々の健康を疾病や治療という視点を超えて、生活のレベルで捉え、健康増進・リハビリテーションなどを含むトータルな保健システムによる取り組みである。健康をめぐる個人・社会・文化の関わりについて、我が国における事例から説明していく。テーマに沿ってゲストスピーカーを招聘し、講義を行う。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支えるケアの歴史について説明できる 2. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支えるケアの現状について説明できる 3. 人々の健康と暮らしを支える医療福祉職を目指す学生としての学修課題に気づくことができる 4. 人々の健康と暮らしを支えるケアに関する今後の学修課題に気づくことができる 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>本科目は、佐久ケア・モデルと地域特性に根差した学修であり、4年次まで多面的、段階的、重層的につながり、医療福祉職の基盤となる考え方を学ぶものであり、全てのディプロマポリシーに関連付けられる。特に「人間福祉に関連する領域の専門的な知識を活用し、生活の再構築や地域課題の解決に向けた社会的支援ができると同時に、さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている（課題解決・応用力）」の達成に対応している科目である。（DP5）本科目は、医療福祉職に共通する・基盤となる考え方を学ぶものであり、看護学部との共通科目である。</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コース オリエンテーション	講義	柿澤			
2	佐久地域の保健予防活動の歴史と現状：地域保健予防活動	講義	特別講師			
3	佐久地域の医療と保健予防活動の歴史①：若月俊一を知る	講義	盛岡			
4・5	佐久地域の医療と保健予防活動の歴史②：地域での暮らしを支える訪問診療・訪問看護（「病院はきらいだ」視聴）	講義	柿澤			
6	佐久地域の福祉活動の歴史と現状：高齢者支援	講義	特別講師			
7	佐久地域の障がい者支援の歴史と現状：精神障がい者支援	講義	特別講師			
8	保健医療福祉にたずさわる者として：意見交換	演習	柿澤			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>本授業は1単位15時間の科目であり、30時間の自己学修が求められている</p> <p>【予習】 本授業の理解を深めるため、配付資料を計画的に読み進める</p> <p>【復習】 毎回の授業後に学びを整理し、Assignmentを提出する</p> <p>* 詳細は、初回授業で説明する</p>						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
<p>参考文献 授業内で適宜紹介する。</p> <p>松島松翠編（2014）．現代に生きる若月俊一のことば．家の光協会．</p> <p>南木佳士（1994）．信州に上医あり－若月俊一と佐久病院－．岩波新書．</p> <p>若月俊一（1971）．村で病氣とたたかう．岩波新書．</p> <p>若月俊一（2007）．若月俊一の遺言．家の光協会．</p> <p>若月俊一（2010）．信州の風の色 地域とともに50年．旬報社．</p>						

<p>成績評価の方法・基準</p> <p>1. 提出課題 (90%)</p> <p>1) 課題レポート (40%) ;</p> <p>授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す</p> <p>目的：佐久の医療とケアの歴史を踏まえ、人々の健康と暮らしを支えるケアについて深め、今後の学修課題を明らかにする</p> <p>方法：授業（映画の視聴、ディスカッション含む）から、人々の健康と暮らしを支えるケアについて、考えたことや今後の学修課題を記述する</p> <p>2) Assignment (50%) ;</p> <p>2, 3, 4・5, 6, 7回のAssignmentを提出する。授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す</p> <p>2. 演習におけるチームに対する貢献度 (10%)</p> <p>演習への参加度を自己評価する</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>課題については、原則コメントをして返却する。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>佐久地域は、国内外に知られる「地域医療先進エリア」であり、現在は、さらなる地域包括ケアシステムの構築を推し進めている。なぜ、佐久地域が「地域医療先進エリア」なのか、その理由をともに学びましょう。そして、<u>佐久地域で保健医療福祉を学ぶ意味について一緒に考えましょう。</u></p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生活習慣と健康	180	1前	選	2単位 30時間	講義	月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取り巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。自己のふり返りを基に、健康の回復・維持・増進のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要とされる食事や運動、思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。						
到達目標						
1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理解する。 2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての役割を自覚する。 3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	健康とは WHOの健康の定義・公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子	講義	朴			
2	命の大切さについて 自殺問題・心の健康問題	講義				
3	働き盛り世代の健康問題について 生活習慣病・職場における自律的健康支援対策	講義				
4	ゲートキーパーについて① 自殺問題とゲートキーパーの役割	講義・演習				
5	ゲートキーパーについて② 自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得	講義・演習				
6	自殺に関する偏見について 自殺は合理的な選択なのか	講義				
7	認知行動療法を知る	講義				
8	認知行動療法の実践	演習				
9	精神分析の概要	講義				
10	ストレス科学分野の研究	講義				
11	支援者として自己管理	講義				
12	人の多様性の理解① 男女の違い	講義				
13	人の多様性の理解② 人の5つの言語の違い	講義				
14	コミュニケーションスキル ところに届く言葉の伝え方	講義				
15	まとめ 授業のポイントの振りかえり	講義・演習				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間内のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。						

成績評価の方法・基準
○授業参加状況（30%） ○授業終了時のミニレポート（20%） ○課題レポート（50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「課題レポート（50%）」とは、授業時に出される自分の心身の振りかえり記録資料を指します。授業時間内の「グループワーク」も本科目において重要なポイントですので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
食と健康	187	1後	選	2単位 30時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮本由香 MIYAMOTO, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。						
授業の概要						
人間の生命維持に必要な栄養素とその代謝経路について理解し、疾病の予防、健康保持増進、疾病の治癒、回復に寄与する栄養の働きを学ぶ。特に、医療、福祉の現場に必要な食事療法とその原理を理解し、栄養素の給源である食べ物や食事としての実践方法を学ぶ。また、ライフステージごとの栄養的特徴や問題から、現代における、「人」「地域」「社会」の食生活の課題を明らかにし、その解決に向け連携できる職種や活用できる地域の資源を見つけられるよう、演習を取り入れた学びとする。「食と健康」を学ぶ中で、自分自身の食生活を振り返り、健康な食習慣に向け学んだ知識を実践することで心身の健康や自分らしく生きる力が身につき、命の大切さを深く理解し、擁護する能力の養成につなげていきたい。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体に必要な栄養素とその体内での代謝経路について説明できる。 2. 健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物が分かる。 3. 近年の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。自らの健康的な食生活が実践できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	栄養とは（人間栄養学と看護）	講義ならび に演習	宮本			
2	健康づくりと食品・食事・食生活					
3	栄養素の種類と働き①：三大栄養素					
4	栄養素の種類と働き②：無機質、ビタミン					
5	日本人の食事摂取基準とエネルギー代謝					
6	栄養ケアマネジメントと栄養状態の評価・判定					
7	栄養素の消化・吸収（臨床栄養も含む）					
8	栄養素の体内代謝（臨床栄養も含む）					
9	ライフステージと栄養①：乳幼児～成人					
10	ライフステージと栄養②：更年期、高齢期					
11	臨床栄養①：消化器疾患を中心に					
12	臨床栄養②：循環器疾患を中心に					
13	臨床栄養③：生活習慣病					
14	現代の食生活の課題、生活習慣病の予防と食事					
15	健康的な食生活の実践にむけて					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>テキスト該当箇所を必ず読んでおくこと。 おおよそ單元ごとに授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：中村丁次『楽しくわかる栄養学』羊土社 参考文献：授業内にて適宜紹介する</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（70%） リアクションシート（10%） 小テスト（10%） レポート課題（10%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>授業で習得した知識に基づき、健全な食生活や健康管理を実践してください。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
運動と健康 I	189	1・2・ 3・4前	選	2単位 30時間	演習	木4, 木5
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい(常時)。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。さらに、年代、体力、障がい等の条件に応じて人々が安全に楽しく運動を実践するために、アセスメント方法、環境づくり、安全管理の基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標						
1. 健康(心と身体)と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ	講義	朴 他			
2-3	球技スポーツ①(バドミントン) + 自由種目	実技				
4-5	球技スポーツ②(バレーボール) + 自由種目	実技				
6-7	球技スポーツ③(バスケットボール) + 自由種目	実技				
8-9	球技スポーツ③(スポンジテニス) + 自由種目	実技				
10-11	子どもの運動遊び + 自由種目	実技				
12-13	ボッチャ + 自由種目	実技				
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ + 自由種目	実技				
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ	実技				
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ	実技				
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ	実技				
22	授業のまとめ	実技				
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間						
週23エクササイズ(メッツ・時)の身体活動(運動・生活活動)を生活で実施すること。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト: 指定しない。 ○参考文献: 講義の中で提示する。						
成績評価の方法・基準						
○授業参加状況(70%) ○授業終了時のミニレポート(30%)						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
運動と健康Ⅱ	190	1・2・ 3・4後	選	2単位 30時間	演習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 1号館3階13179						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、心と身体の健康と運動の関係や運動の基本的な知識や理論を理解する。また、自らの健康づくり及び楽しく安全な運動習慣を身につけるために、メッツとエクササイズ概念を理解した上で、日常生活の中で楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。						
到達目標						
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ	講義	朴 他			
2-3	球技スポーツ①（バドミントン）＋自由種目	実技				
4-5	球技スポーツ②（バレーボール）＋自由種目	実技				
6-7	球技スポーツ③（バスケットボール）＋自由種目	実技				
8-9	球技スポーツ③（スポンジテニス）＋自由種目	実技				
10-11	子どもの運動遊び＋自由種目	実技				
12-13	ボッチャ＋自由種目	実技				
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ＋自由種目	実技				
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ	実技				
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ	実技				
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ	実技				
22	授業のまとめ	実技				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。						

成績評価の方法・基準
○授業参加状況（70%） ○授業終了時のミニレポート（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
社会保障論 I	622	1後	必 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	火3
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○唐鎌直義 KARAKAMA, Naoyoshi						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
イギリスでは資本主義が他国に先駆けて成立したために、社会保障制度も早期に成立し、長い時間をかけて順次発展してきた。その経緯を辿ると、なぜ貧困救済が必要になったのか、なぜ公的年金や失業保険が創設されたのか、その背景と理由が理解できる。イギリス社会保障の発展史を辿ることにより、社会保障の意義を明確にする。						
到達目標						
<p>①イギリスでは公的扶助受給者に対するバッシングは殆どない。なぜ日本ではバッシングが繰り返されるのか。その理由を理解できるようになる。</p> <p>②イギリスでは「原則無料の医療」が実現されているので、貧困者でも経済的理由で受診を諦める必要はない。なぜ日本では無保険者が資格証明書で全額自己負担で受診しなければならないのか。その理由を理解できるようになる。</p> <p>③イギリスでは公的年金の受給額に大きな格差がない。なぜ日本では月額3～4万円で貧困生活を送る高齢者が多数存在する一方で、老後の贅沢まで保障されている高額年金受給者が存在するのか。その理由を理解できるようになる。</p> <p>④なぜイギリスでEU離脱が起きたのか。世界史の今を理解できるようになる。</p> <p>⑤社会保障に関する基本的概念・専門用語を正しく使えるようになる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。(ケアの専門知識) (DP1)</p> <p>社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。(論理的思考) (DP3)</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	絶対主義 (初期資本主義) と「エリザベス救貧法」(1601年) の成立	講義	唐鎌			
2	18世紀個人的自由主義の強まりと救貧法の変遷	講義	唐鎌			
3	19世紀産業革命と「新救貧法」(1834年) の登場	講義	唐鎌			
4	「新救貧法」の4原則と市民への影響	講義	唐鎌			
5	世紀末大不況期の「貧困の発見」—C・ブースのロンドン調査 (1887年)	講義	唐鎌			
6	世紀末大不況期の「貧困の発見」—B・S・ラウンリーのヨーク調査 (1903年)	講義	唐鎌			
7	20世紀初頭の自由党政権の成立と「社会保険の時代」の到来	講義	唐鎌			
8	「国民保険法」(1911年) とその限界	講義	唐鎌			
9	社会保障のバイブル『ベヴァリッジ・レポート』(1942年) の内容	講義	唐鎌			
10	『ベヴァリッジ・レポート』(1942年) に対する評価	講義	唐鎌			
11	戦後福祉国家の誕生 (1948年) とベヴァリッジ体制	講義	唐鎌			
12	1960年代「貧困の再発見」(P・タウンゼント&B・エーベルスミス)	講義	唐鎌			
13	社会保障の発展 (選別主義から普遍主義へ、移民のシティズンシップ)	講義	唐鎌			
14	M・サッチャーによる福祉国家の見直しと労働党の「第三の道」(就労支援)	講義	唐鎌			
15	自立支援・就労支援の見直しと反グローバリゼーションの波 (プレグジット)	講義	唐鎌			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>シラバスどおりに授業展開できるように努めるので、参考書等を事前に読んで予習しておくことが望ましい。授業中は、配布資料に安心せずに、教員の授業内容を綿密にノート等に筆記することが重要である。授業後は、参考書等書かれていること以外の内容も含めて、ノートの整理等の復習をすることが望ましい。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキストは使わない。その代わりに毎回、講義レジュメ（A4版4枚程度のプリント）を配布する。参考書として、唐鎌直義『脱貧困の社会保障』（旬報社、2012年）を挙げる。それ以外の参考書・参考文献は、講義の際に随時提示する。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>期末試験を実施する。その成績を全体の80%として評価する。授業の終わりに提出してもらう「コミュニケーション・ペーパー」の提出状況（全部で4回程度）とその内容を全体の10%として評価する。毎回の授業の際に出欠状況の確認を行い、授業への主体的参加状況を全体の10%として評価する。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>試験の成績に対するフィードバックは原則として行わない。成績評価に疑問が生じた場合は、教務課を通して正式に問い合わせること。試験に関する事前情報は、講義の際に全員平等の環境で行うので、個別の質問には一切答えない（不公平になるので）。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>講義中の私語は厳禁とする。教員に対する講義妨害になるだけでなく、授業を受けている真面目な学生の修学妨害にもなるので、厳に慎んでほしい。授業内容に対する質問等は、コミュニケーション・ペーパーに記載してほしい。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
社会福祉論	623	1前	必 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	金2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○佐藤嘉夫 SATO, Yoshio 下村幸仁 SHIMOMURA, Yukihiro						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
現代社会における多様な課題の中で、社会福祉は重要な責務を担っている。一方、社会福祉の現状は様々な分野に分かれており、複雑である。しかし、そもそも社会福祉とは何か、どのように捉えて行けば良いのかという根本的な問いに立ち返って、社会福祉のあり方を学ぶ。ここでは、社会福祉の基底にある問題を生活問題として位置づけ、社会福祉が対象とする課題を明らかにし、社会福祉が果たす役割と意味について理解を深める。						
到達目標						
①社会福祉が国の制度として成立した流れを理解している。 ②今日の社会で社会福祉が、なぜ必要不可欠であるかについて説明できる。 ③社会福祉の分野や方法について述べることができる。 ④社会福祉援助の方法と求められる価値、態度について述べることができる。 ⑤ケア重視の社会が進んでいく中で、社会福祉にはどんな役割が期待されているか、自分の考えを述べるができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。(ケアの専門知識) (DP1) 社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。(論理的思考) (DP3)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	社会福祉とはなにか：歴史	講義	佐藤			
2	社会福祉の哲学・思想と生存権	講義	佐藤			
3	社会福祉の価値・理念と共生社会	講義	佐藤			
4	社会福祉の対象となるのは何か：対象の捉え方とその変遷	講義	佐藤			
5	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題1 児童福祉	講義	下村			
6	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題2 障害者福祉	講義	下村			
7	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題3 高齢者福祉	講義	下村			
8	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題4 生活保護	講義	下村			
9	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題5 母子・父子・寡婦福祉	講義	下村			
10	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題6 地域福祉	講義	下村			
11	社会福祉の分野・仕組みと今日的課題7 生活困窮者支援	講義	下村			
12	社会福祉における援助者と「対象者」	講義	下村			
13	ケア領域の広がり和社会福祉	講義	佐藤			
14	ケアリング・ソサイティ和社会福祉の未来	講義	佐藤			
15	ふり返りとまとめ	講義	佐藤			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
①人権思想が芽生えた啓蒙期の思想を辿ってみる。 ②現代の生存権・憲法25条と関連する条項を読んでみる。（配布資料） ③新聞、テレビのニュース等で報道された具体例をみて、社会福祉の課題をメモしてみる ④現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのかを考えてみる。（ミニ・レポート） ⑤看護、介護、社会福祉は、なぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：特になし。 参考書については授業中に指示する。
成績評価の方法・基準
リアクションペーパーやワークシートの提出 30%、小テスト（2～3回） 30%、最終レポート 40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
担当教員からのメッセージ
日常生活の中で、社会福祉の役割・期待を考えられるようにしましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
福祉事務所でのソーシャルワーカーや総合相談窓口、ひとり親家庭に対する政策に24年間携わった経験を生かして、私たちの生活において社会福祉制度が何故必要なのかなどについて分かりやすく説明をしていきます。

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ソーシャルワーク入門	205	1・2・ 3・4後	必 (社) 必 (精) 必	2単位 30単位	講義	水5
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○上西一貴 JONISHI, Kazuki k-jonishi@saku.ac.jp 1号館2階1217						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。						
授業の概要						
ソーシャルワークの理念と歴史を学び、日本におけるソーシャルワーカーの専門職として、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解する。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を深く理解することを通し、学部理念である「豊かな人間性」を修得することをねらいとする。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。 ・精神保健福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。 ・ソーシャルワークの歴史と理念について説明できる。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について、説明することができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。(ケアの専門知識) (DP1) 個人や社会が抱える課題に対して、相談援助を通じて調整や協働ができる。(相談・調整力) (DP7)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の実践・役割・機能	講義	上西			
2	ソーシャルワークの実践形態	講義	上西			
3	社会における社会福祉士の(法的)位置づけと実践の専門性	講義	上西			
4	社会における精神保健福祉士の(法的)位置づけと実践の専門性	講義	上西			
5	ソーシャルワークの定義の変遷	講義	上西			
6	ソーシャルワークの原理1:社会正義と集団的責任	講義	上西			
7	ソーシャルワークの原理2:人権の尊重と多様性の尊重	講義	上西			
8	ソーシャルワークの理念1:クライアントの尊厳	講義	上西			
9	ソーシャルワークの理念2:当事者主権と「自立」支援	講義	上西			
10	ソーシャルワークの形成過程1:2つの源流	講義	上西			
11	ソーシャルワークの形成過程2:専門職化	講義	上西			
12	ソーシャルワークの形成過程3:統合化とジェネラリスト実践	講義	上西			
13	ソーシャルワーカーの倫理1:専門職としての倫理	講義	上西			
14	ソーシャルワーカーの倫理2:倫理的ディレンマ	講義	上西			
15	ソーシャルワーカーの倫理2:専門職の危うさ	講義	上西			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
事前学習：毎回の授業最後に示すお題について次回授業時までには自分の考えをまとめてください。その考えを確認することがあります（15時間）。 事後学習：授業資料をもとに参考書などで授業内容を再確認してください（15時間）。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
参考書 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』 中央法規. そのほか、授業時に提示します。
成績評価の方法・基準
課題試験50% 定期試験50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
試験については解答を開示します。 お題については授業時に確認し、コメントします。とくに要望があれば個別にコメントします。
担当教員からのメッセージ
この科目ではとくに、考えること、覚えること、が求められます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域福祉論 I	625	1後	必 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	木3
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○野口定久 NOGUCHI, Sadahisa						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内に指示する。						
授業の概要						
<p>本授業では、社会福祉士を含む社会福祉専門職がもつべき価値と倫理を基盤として、地域福祉に関する基本的な考え方・捉え方・実践で活用する知識や技法を体系的に学習する。具体的には、地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、地域福祉の推進方法等について学び、地域福祉への理解を深める。さらに、3つの論点（①人口減少時代の地域福祉の枠組み、②地域福祉の行財政、③地域福祉のベクトル）を中心に、多様な理論と実践事例を紹介しながら、図解を用いてわかりやすく解説する。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ・各地の住民主導型の地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ・地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、推進方法等について学び、さらに人口減少時代の地域福祉の枠組み、地域福祉の行財政、地域福祉のベクトルの三つの論点を中心に説明できる。 ・地域の資源を活用した社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実践例等を参考に、地域再生の方法論について学ぶことができる。 ・地域包括ケアシステムをリードする地域福祉専門職のコミュニティソーシャルワーク、ソーシャルアクション、地域資源開発、個別問題解決等の活動方法論を学ぶことができる。 ・生活困窮者および社会的脆弱層等への総合的な支援の提供を学ぶことができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。(ケアの専門知識) (DP1) 社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。(論理的思考) (DP3)</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	人口減少社会の地域福祉	講義	野口			
2	地域福祉の新たな枠組み	講義	野口			
3	地域福祉の対象と課題	講義	野口			
4	地域福祉の思想と論理	講義	野口			
5	福祉コミュニティの形成ーコミュニティ論を超えて	講義	野口			
6	地域福祉の行財政	講義	野口			
7	地域福祉の政策と計画	講義	野口			
8	域福祉計画の戦略と推進	講義	野口			
9	地域福祉計画の住民参加と協働	講義	野口			
10	居住福祉のまちづくりと包括的支援体制	講義	野口			
11	地域で住み続けるために (被災地、過疎地)	講義	野口			
12	地域包括ケアシステムとネットワーク	講義	野口			

13	地域福祉推進組織と多元的サービス供給	講義	野口
14	災害支援および防災活動と地域福祉	講義	野口
15	地域福祉の主体形成とコミュニティソーシャルワーク	講義	野口
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
この講義は、パワーポイントを用いたビジュアルな情報伝達と実地研究による現場の思考が教材である。現場の事象⇒理論化⇒現場での検証⇒再理論化の研究方法论を用いる。地域の隣人との付き合い方、地域文化、家族関係、生活習慣等の相違点や共通点など新聞や書籍、IT等から情報を収集するように努めること。			
配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h) 小テストや配布資料を用いて復習する(15h)。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト1：野口定久『ゼミナール 地域福祉学－図解でわかる理論と実践』中央法規出版，2018年 テキスト2：野口定久『人口減少時代の地域福祉論－グローバリズムとローカリズム』ミネルヴァ書房，2016年 テキスト3：武川正吾『福祉社会－包摂の社会政策』有斐閣，2011年			
成績評価の方法・基準			
定期試験を行います。また、小テスト（2回）を実施する。評価は、定期試験と小テスト(2回)の合計点で行う。配点は定期試験 60%、小テスト 40%。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
本試験や小テストの解答例、関連する事例や文献を提示する。			
担当教員からのメッセージ			
毎講義への主体的な参加を希望いたします。 テキストは、事前学習および講義で使用しますので購入しておいてください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ヒューマンケア基礎実習	627	1後	必	1単位 45時間	実習	金3～5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○高松 誠 TAKAMATSU, Makoto 島田千穂 SHIMADA, Chiho 李 省翰 LEE, SungHan 野坂洋子 NOSAKA, Yoko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内で周知する						
授業の概要						
本実習は、ソーシャルワーク実習の導入部にあたる実習である。内容は、福祉施設・機関等の「現場」の見学、体験実習である。10人から15人程度のグループに分かれて、2日間、午前と午後の4種・箇所を訪問して、施設・機関等の役割、処遇状況などの概要の講義をうけ、入所者、利用者との交流体験をする。						
到達目標						
①ケアの現場を体験しケアへの入所者や利用者への共感を持つことができる。 ②施設等の具体的な役割や機能について説明できる。 ③入所者や利用者のケアニーズとその充足状況が理解できる。 ④ケア専門職の専門技術や役割について感じたことを述べるができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。（ケアの専門知識）（GP1） 社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。（論理的思考）（GP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ガイダンス、グループ分け	実習（事前指導）	全教員			
2	訪問施設等についての学習	実習（事前指導）	全教員			
3	訪問・体験実習（高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設、その他）	実習	全教員			
4	訪問・体験実習（高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設、その他）	実習	全教員			
5	訪問・体験実習（高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設、その他）	実習	全教員			
6	訪問・体験実習（高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設、その他）	実習	全教員			
7	振り返り、ディベート	実習（事後指導）	全教員			
8	まとめのレポート作成	実習（事後指導）	全教員			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
①訪問施設等の事前学習（概要、体験課題等の整理） ②ディベートのための各自の論点整理とディベート後の振り返り ③まとめのための準備						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
授業で使用する資料を事前配布
成績評価の方法・基準
授業参加への積極性20%、ディベートの発言20%、まとめのレポート 60%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習時間内に適時担当教員が個別フィードバックする。
担当教員からのメッセージ
様々な場で人々と交流し、ソーシャルワークの実際を考えて参加しましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
法学（日本国憲法含む）	165	1後	選	2単位 30時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○関 良徳 SEKI, Yoshinori yosseki●shinshu-u. ac. jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
法のしくみと考え方について述べた後に、日本国憲法を柱とする現代日本の法の法体系について概説する。日本国憲法は、基本的人権の規定と統治組織の規定とで構成されている。本講義においては、人権の部分を中心として行うものである。よって、人権の享有主体、各種自由権、社会権、参政権、受益権等について解説していく。個別法の中では、民法を中心に契約の考え方と、親族法における扶養関係他相続について触れる。						
到達目標						
私たちの身のまわりの法律問題について理解を深めると同時に、憲法を基軸とする法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「社会や個人の生命・生活・生涯に関わる諸問題を多角的に捉え、問題解決に向けた論理的思考ができる能力を身につける」授業科目である。(DP2)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	自己決定と法：法的な考え方の基礎にある「自己決定権」について学ぶ。	講義	関			
2	消費生活と法（1）：消費生活における契約と約款の問題を様々な事例から学ぶ。	講義				
3	消費生活と法（2）：消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。	講義				
4	事例検討[1]：自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探る。	演習・討論				
5	家族と法：家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。	講義				
6	子どもと法（1）：児童虐待の問題について、その原因や法的対応について学ぶ。	講義				
7	子どもと法（2）：現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。	講義				
8	事例検討[2]：家族に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考える。	演習・討論				
9	犯罪と法：犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。	講義				
10	裁判員制度：裁判員制度の意義と問題点について考える。	講義				
11	医療と法（1）：インフォームド・コンセントと安楽死・尊厳死について考える。	講義				
12	事例検討[3]：刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。	演習・討論				
13	医療と法（2）：代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟について解説する。	講義				
14	労働と法（1）：採用と退職・解雇に関わる労働法について検討する。	講義				
15	労働と法（2）：就業時間、賃金、職場環境に関する労働法について概説する。	講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。 参考文献：適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（30%） 授業への取組み状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
心理学	631	1後	選 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	月4
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○寺門 正顕 TERAKADO, Masaaki mterakad●sjc-nagano.ac.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
心理学的理論と技法の基礎を学習し、人の成長と発達、人と社会のかかわり、日常のストレスと心の健康などを理解するひとつの視座を獲得することを目指す。人の心理と行動を機能という観点からいくつかに分類し、それぞれの領域から主要なトピックを選択して概説する。授業中にグループワークを行うことがある。						
到達目標						
この科目の到達目標は以下の4点である。 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。(論理的思考) (DP3) 現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ガイダンス：感覚・知覚 錯覚を通して、知覚の情報処理過程や感覚モダリティなど、見ること・感じることについて考える。	講義	寺門			
2	個人差1：パーソナリティ・性格 性格検査の自己分析とともに、様々な性格理論や測定方法を理解する。					
3	認知1：記憶のメカニズム 覚えるとはどういうことか、うまく記憶するための方法を、記憶の実験を通して理解する。					
4	学習・行動 条件づけについての理解から、褒めること、叱ることの注意点を理解する。					
5	感情・動機づけ・欲求 感情のメカニズムを理解し、欲求・動機づけの理解を通して、やる気を出すにはどうすればよいか、を考える。					
6	人の心の発達過程：生涯発達と心の発達の基盤 様々な発達理論と、遺伝的影響について、また各発達段階における発達課題を理解する。					
7	人と環境1：対人関係 第一印象の重要性や人の魅力の要因、考え方や好みの変容の影響する心のメカニズムを理解する。					
8	人と環境2：集団・組織 多くの人の中で、私たちはどんな影響を受けているのか、を理解する。					
9	認知2：思考と認知バイアス 我々の思考は、客観的ではなく認知的なバイアス(偏り)の影響を受けていることを、いくつかの実験的体験を通して理解する。					
10	個人差2：知能 知能検査の歴史から、知能指数の統計的な考え方に触れるとともに、かしこさ・知能とは何かを考える。					

11	心の生物学的基礎 心の働きと密接に関連する脳の構造や神経機能を理解する。		
12	日常生活と心の健康：心の不適応と健康生成論 ストレスに関する理論と、様々な心理的要因の解説をもとに、いかにして ストレスと付き合っていけば良いか、自己分析とともに対処方法を考える。		
13	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本1 様々な心の問題と、その心理アセスメントの方法について理解する。		
14	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本2 心理的支援の基本的技法を学ぶとともに、各種の心理療法におけるアセス メントと介入技法の概要について理解する。		
15	心理学の視点：心理学の歴史と心を探求する方法の発展 最後に、心理学の歴史を辿りながら、心を探求する方法の発展を理解する。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
準備学習として、各授業回に対応した教科書の該当ページに事前に目を通しておくこと（各回2～3時間）。 また、各授業回が終わった後に、授業の内容を振り返るミニテストをオンラインで各自解答すること（各回1時間）。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編） 2 心理学と心理的支援 最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8232-0			
成績評価の方法・基準			
期末試験 50%、毎回のミニテスト 40%、授業参加状況 10%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
毎回のミニテストの結果と解説を、次回の授業回の際に行ない、各自にフィードバックする。			
担当教員からのメッセージ			
心理学は、人が活動するさまざまな場面と密接に関連する、幅広い学問分野です。この講義を通して、日常の中に存在する心の働きに目を向け、心に対する科学的な理解を深めてください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
社会学	632	1後	選 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○関谷龍子 SEKIYA, Rune 阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業開始時に指示する。						
授業の概要						
現代社会に生きる私たちの日々の生活は、複雑な構造をもっており、社会がどうなっているのか、そもそも社会というのは何なのか、全体像が見えにくくなっている。また実際それが見えないと思込んでいる。しかし、人間と社会の関係は、様々な領域で複雑に絡み合っている。生活において見えなくなっている、あるいは見ええないと思っている、社会との関係性を、社会学という視点を学ぶことによって可視化するのが、この講義の目的である。						
到達目標						
講義を通して、現在社会の全体像の一端を理解する。 また、一見無関係な現象でも様々な関連性を持っていること、それらを社会学的な視点から検討し、論理的に説明できることを理解する。 現在の都市や地域社会、農村の特徴や置かれた状況について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。(論理的思考) (DP3) 現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	現代社会を捉える視点	講義	関谷			
2	超高齢社会の進展	講義	関谷			
3	情報化の光と影	講義	関谷			
4	グローバル化の功罪	講義	関谷			
5	豊かな社会の格差と不平等	講義	関谷			
6	「働くこと」の現在と未来	講義	関谷			
7	ジェンダー	講義	関谷			
8	環境問題と私たち	講義	関谷			
9	「生活」の捉え方	講義	関谷			
10	家族 (1) 伝統的な家族－イエの理論	講義	阿部			
11	家族 (2) 家族の変容と現代家族	講義	阿部			
12	地域社会 (1) ムラの理論	講義	阿部			
13	地域社会 (2) 現代農村をめぐる動向	講義	阿部			
14	地域社会 (3) 都市型社会の出現	講義	関谷			
15	地域社会 (4) まちづくりとコミュニティ	講義	関谷			
授業時間外学修 (準備学習を含む) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
各回のテーマに関し、文献を読んでおくよう指示する場合がありますので注意すること。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト	授業開始時に指示
参考文献	筒井淳也・前田泰樹『社会学入門－社会とのかかわり方』有斐閣
成績評価の方法・基準	
平常点（コメントシート・小レポート）	60%
期末レポート	40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
授業内でコメントシートを書いてもらい、次の授業の中で紹介する。また、適宜小レポートを課す。 提出された内容に関して、コメント、解説などを行う。	
担当教員からのメッセージ	
講義の中から自分の関心のあるテーマを見つけ、問題意識を持つようにしてください。	
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）	

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
家族社会学	111	1・2後	選	2単位 30時間	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
<p>家族社会学における基本的な概念やものの見方・考え方を習得するとともに、現代社会における家族の変化が、社会変動や制度とどう関わってきたかを知ることが本講義の第1の目的である。家族とは、受講生の皆さんにとって、身近な存在・対象であるかもしれない。だからこそ自分たちのもつ家族やそのイメージを自明なものとして考えてしまうことも多いのではないだろうか。こうした「家族の当たり前」を検討・分析する思考を養うことが本講義の第2の目的である。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・家族社会学の基礎的知識と考え方を習得し、説明できる。 ・近代以降の日本の人口変動、家族変動の流れを理解できる。 ・自分の身の回りの物事・現象と家族社会学の知識を結び付けて考えることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、その問題の解決に向けて論理的な思考ができる。（論理的思考）（DP3） 現実的な諸問題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。（分析力）（DP4）</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	家族の基本概念	講義	阿部			
2	人口構造の変動	講義	阿部			
3	近代家族論（1）	講義	阿部			
4	近代家族論（2）	講義	阿部			
5	労働と家族（1）	講義	阿部			
6	労働と家族（2）	講義	阿部			
7	高齢者ケアと家族（1）	講義	阿部			
8	高齢者ケアと家族（2）	講義	阿部			
9	結婚・親子関係（1）	講義	阿部			
10	結婚・親子関係（2）	講義	阿部			
11	社会的養護（1）	講義	阿部			
12	社会的養護（2）	講義	阿部			
13	「伝統的」な家族（1）	講義	阿部			
14	「伝統的」な家族（2）	講義	阿部			
15	家族の多様性	講義	阿部			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
<p>新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく（事前学習。目安として1時間）。 授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる（事後学習。目安として1時間）。</p>						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：特になし。 参考書については授業中に指示する。
成績評価の方法・基準
リアクションペーパーやワークシートの提出 60%、最終レポート 40%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
担当教員からのメッセージ
講義のなかで取り扱うトピックの数は限られたものではありませんが、受講生のみなさんにとって身近な存在／対象である「家族」について考える際の新たな視点を提供できればと思います。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
高齢者福祉論 I	640	1後	必 (社)必	2単位 30時間	講義	火4
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○佐藤嘉夫 SATO, Yoshio						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
本講義のねらいは、学習のスタートとして高齢者福祉の基礎的理解の涵養を図るところにある。今後、長きに渡り、超高齢化社会としての課題へ向き合う我が国にとって高齢者福祉をめぐる議論は、より複雑化の様相を示し、先行きの見通しも定まらぬ状況にある。しかし、そんな今だからこそ、足元を見直すこと、つまり、積年の成果を確認することから、新たな展望を目指すことが求められる。まずは、高齢者福祉の発展過程を巡り、また要となる制度の基本的な理解を養い、更には、現代的課題となるテーマを概観することによって、本講義の目的を達成したい。						
到達目標						
①子どもの成長・発達との対比で「古い」の意味と仕組みが理解できている。 ②ライフサイクルの視点から高齢期に至る生活変化と高齢期生活の特徴を理解できている。 ③生活ニーズの視点から日本における高齢者福祉の仕組みとその変遷の特徴が説明できる。 ④高齢者福祉サービスの方法および供給の多元的状況が説明できる。 ⑤高齢者福祉を支える多様なヒューマン・パワーの意義について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4) 人間福祉に関連する領域の専門的な知識を活用し、生活の再構築や地域課題の解決に向けた社会的支援ができると同時に、さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている。(課題解決・応用力) (DP5)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	「古い」の現象学1 古いとはなにか			講義	佐藤	
2	「古い」の現象学2 古いと老年期			講義	佐藤	
3	「古い」の生活学1 古いと家族生活			講義	佐藤	
4	「古い」の生活学2 老いが福祉ニーズを生み出すプロセスと仕組み			講義	佐藤	
5	「古い」の社会問題論 人口、産業・労働、生活			講義	佐藤	
6	高齢者の福祉1 その意味と今日的意義			講義	佐藤	
7	高齢者の福祉2 基本理念・制度の原則			講義	佐藤	
8	高齢者の福祉3 分野と体系			講義	佐藤	
9	高齢者の福祉4 方法			講義	佐藤	
10	高齢者の福祉5 「施設」と「在宅」			講義	佐藤	
11	今日の高齢者福祉1 介護保険制度と「老人福祉法」			講義	佐藤	
12	今日の高齢者福祉2 コミュニティケア・地域包括ケア			講義	佐藤	
13	今日の高齢者福祉3 家族・地域・ボランティア			講義	佐藤	

14	今日の高齢者福祉4 高齢者福祉を担う人々とネットワーク	講義	佐藤
15	日本の高齢者福祉の特徴と性格	講義	佐藤
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として1時間） 授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
特になし。 参考書については授業中に指示する。			
成績評価の方法・基準			
リアクションペーパーやワークシートの提出 30%、小テスト（2～3回） 30%、最終レポート 40%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。			
担当教員からのメッセージ			
家族の中にいる高齢者および地域生活の中で出会う高齢者とともに現在から、将来を見据えて高齢者福祉の課題を考えてみましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
障害の福祉学 I	642	1後	必 (社) 必 (精) 必	2単位 30時間	講義	集中
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○高島恭子 TAKASIMA, Kyoko takashima-kyoko●spu. ac. jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
メールにてご連絡ください。						
授業の概要						
<p>障害者福祉の総論として位置づけ「障害」および「障害者」の本質とその福祉に関する基本的な知識を学ぶとともに、現在や将来の障害者福祉について科学的に考え、積極的に取り組む姿勢を培うことを通して、学部の理念である「豊かな人間性」と「問題解決能力」を修得することをねらいとする。</p> <p>障害と障害者に対する理解、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）、障害者の法的定義、障害者福祉制度の発展過程、障害者施策の体系及び相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度等、基本的な事項の理解と修得を目指す。</p> <p>障害概念と定義、障害者の実態、障害者施策の概念等を通じて、社会の中での障害者の生活の支援の枠組み、支援における地域での連携、協働について理解する。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。 ・ 障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できる。 ・ 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できる。 ・ 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4)</p> <p>人間福祉に関連する領域の専門的な知識を活用し、生活の再構築や地域課題の解決に向けた社会的支援ができると同時に、さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている。(課題解決・応用力) (DP5)</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会環境、福祉・介護需要について考える。	講義	高島			
2	「障害」に関する多様な見方とその背景について学ぶ。障害を構造的に理解すること、国際生活機能分類 (ICF)、障害者の定義と特性について学ぶ。	講義	高島			
3	障害者福祉の理念、障害者観の変遷、障害者処遇の変遷について学ぶ。	講義	高島			
4	障害者の権利条約と障害者基本法、障害者福祉制度の発展過程について学ぶ。	講義	高島			
5	身体障害と身体障害者福祉法について学ぶ。	講義	高島			
6	知的障害と知的障害者福祉法について学ぶ。	講義	高島			
7	精神障害と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律について学ぶ。	講義	高島			
8	障害者総合支援法の概要、障害福祉サービス及び相談支援について学ぶ。	講義	高島			
9	障害者総合支援法の障害支援区分及び支給決定、自立支援医療、補装具について学ぶ。	講義	高島			
10	障害者総合支援法の地域生活支援事業、障害福祉計画について学ぶ。	講義	高島			
11	児童福祉法、発達障害と発達障害者支援法について学ぶ。	講義	高島			
12	障害者虐待防止法、障害者差別解消法、バリアフリー法について学ぶ。	講義	高島			

13	障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法について学ぶ。	講義	高島
14	障害者と家族等の支援における関係機関の役割、関連する専門職等の役割について学ぶ。	講義	高島
15	障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割、障害者と家族等に対する支援の実際（多職種連携を含む）について学ぶ。全体を振り返り、「障害」と支援について理解を深める。	講義	高島
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習：教科書の授業の該当箇所を予め読んで授業に臨むこと。 復習：ノートや資料を読み返し、授業の要点を確認すること。1コマ当たりの準備学習に必要な時間は90分とする。 その他、「障害者福祉」に関連するボランティア活動に参加をしたり、「障がい」をテーマとするTV番組や映画、新聞記事を読むなどして、関心を高めること。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規出版.			
成績評価の方法・基準			
毎回の確認小テストの評価を60%、期末試験の評価比率を40%とする。期末試験では到達目標についてその程度を評価する。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業内でフィードバックを行う。			
担当教員からのメッセージ			
「障害者福祉」はどこか私たちとは違う「あの人たち」のものでしょうか。授業では法律を扱うことが多くなるかもしれませんが、社会モデル、人権モデルを基礎に、障害の福祉を一緒に考えていきたいと思えます。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
児童福祉論 I	644	1後	必 (社) 必	2単位 30時間	講義	月2
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○高松 誠 TAKAMATSU, Makoto						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
社会福祉の基礎分野としての位置づけから児童・家庭福祉とは何かを考えさせ、児童・家庭福祉への視点を学習させることをねらいとする。現代社会における児童・家庭福祉の社会的背景、児童・家庭福祉ニーズの把握方法、児童の権利、子どもの貧困、子ども虐待、一人親家庭、家庭内暴力 (DV)、子育て支援、児童・家庭福祉の法律とサービス体系、児童・家庭福祉に対する相談支援活動等について学ぶ。						
到達目標						
①子どもと家庭を取り巻く諸問題とそれらを支援するサービスについて理解することができる ②社会福祉専門職として求められる子どもへの支援についてのヒューマンケアの視点から知識を習得する ③児童福祉における法制度や支援体制について知り、それらを活用するための方法論を理解する ④児童福祉における実践をソーシャルワーク実践との関連で理解し、考察を展開することができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4) 人間福祉に関連する領域の専門的な知識を活用し、生活の再構築や地域課題の解決に向けた社会的支援ができると同時に、さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている。(課題解決・応用力) (DP5)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	子ども家庭福祉とは何か／児童の定義：子どもの権利思想の広がり子ども家庭福祉の概念規定、社会的養育の視点について学修する。特に児童の権利に関する条約の概要に注目し、それらに通底する子ども観について理解を深める。	講義	高松			
2	子ども家庭福祉の歴史：子どもの権利擁護の歴史としての、「子ども家庭福祉」の概念に至るまでの歴史の変遷について学修する。児童憲章及び児童権利宣言などについて言及し、児童の権利・最善の利益についての理解を深める。	講義	高松			
3	子ども家庭福祉の実施体制① 法体系と実施体制：子ども家庭福祉における法制度理解の重要性について理解を深め、現行の諸制度がどのような法的枠組みと実施体制の中で行われているのかについて学修する。	講義	高松			
4	子ども家庭福祉の実施体制② 施設運営・財源・専門職：子ども家庭福祉における財政面・施設運営についての知見を深めておくことの重要性を指摘しながら、子ども家庭福祉における専門職の概要や子育て支援制度への参画について知る。	講義	高松			
5	子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク実践：子ども家庭福祉におけるソーシャルワークの意義、具体的な支援のプロセスについて学び、以降の講義での各テーマにおける実践例を学修していくうえでの基礎的方法論及び視点を確認する。	講義	高松			
6	子ども・子育て支援：我が国における子ども・子育て支援体制について学修する。その際に地域の実情に合わせた子ども・子育て支援に着目し、いわゆる「児童健全育成」の概念についての理解を深める。	講義	高松			
7	母子保健：母子保健と子ども家庭福祉との関連について学び、子育て世代包括支援センター等の新たな取り組みについても理解を深める。また、母子保健に関する近年の動向として、生育基本法の概要についても指摘を行う。	講義	高松			
8	保育：現在までの保育の流れ、保育制度の概要について学修する。また、子育て家庭が抱える課題とそれに対応するソーシャルワーク実践にも注目する。	講義	高松			

9	要保護児童等と在宅支援／児童虐待にかかわる支援：在宅支援の対象児童の問題における課題について理解を深め、現代社会における子ども・家庭・地域の課題としての児童虐待の問題について、基礎的な知見を得ることを目指す。	講義	高松
10	社会的養護：社会的養護の概要と動向について学修する。家庭養護と施設養護を支える専門職、地域の支援者にも注目し、社会全体が問題を抱えた子どもを支援していく体制についての理解を深める。	講義	高松
11	ひとり親家庭／DV支援：ひとり親家庭に対する支援の基本について触れ、ソーシャルワーカーに求められる支援の在り方について言及する。また、「女性福祉」の概念に言及する中でドメスティックバイオレンス支援についても言及する。	講義	高松
12	スクールソーシャルワーク：子どもの家庭と学校を取り巻く課題において、教育と福祉がどのような形で連携し、子どもの最善の利益を実現していくのかを、スクールソーシャルワークの展開と関係機関との連携から理解を深めていく。	講義	高松
13	少年非行／若者支援：少年非行への支援の歴史と動向について知り、子ども家庭福祉がどのような支援を行う可能性を有しているかを学修する。また、子どもの貧困、自立支援、ケア等の用語を用いながら若者支援のあり方への理解を深める。	講義	高松
14	障害のある子どもへの支援／ソーシャルアクション：インクルージョンや特別支援の概念について学修し、子ども家庭福祉における支援サービス内容についての理解を深める。加えて、社会資源、ソーシャルアクションについても言及する。	講義	高松
15	全15回の講義の総括として、これまでの学修内容の復習、確認を行い、権利の主体としての子どもへの適切な支援のあり方を再考する。講義全体を振り返ることにより子ども家庭福祉領域における社会福祉士の役割についても理解する。	講義	高松
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：各講義の最後に次回までの予習として、読んでおくべき教科書の箇所を指定します。概ね、予習にかかる時間は1時間程度になると思われます。 ・復習：講義の内容を定着化するために、講義の内容をノート等で記録したことを再確認するとともに、可能ならば、学修・活動経験を記録・蓄積し、自らの成長を確認するためのノートを独自に作成し、それを携帯することを希望します（学修ポートフォリオ）。ノート（含ワープロ等）の再読や、自修内容のノートへの記載も含めて、1時間30分強程度の復習時間が必要であると思われます。 ・予習・復習の方法：講義で扱った教科書の箇所を事前に通読する、学習後再読することを習慣化してください。 			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集「最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉」中央法規出版 2021			
成績評価の方法・基準			
筆記試験40% レポート40% 授業参加状況（小課題等への取り組み・授業への参加態度）20%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験とともに、レポートの提出を課する。講義の後半に課題及び提出期限を提示する。試験は講義の最終回に内容について具体的に提示する。			
担当教員からのメッセージ			
児童福祉の基盤について学ぶことにより学生の皆さんには、講義内容をご自身で学修を深めていかれることを望みます。その際に文献の調査方法や所在について不明な点がありましたら質問下されば、お答えいたします。講義で学んだ理論や手法を実習等の実践へと生かしていくために学びを深めてまいりましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
スクールソーシャルワーカー及び児童関連施設の支援員等の実務経験からは実践現場での子どもとのかかわりを、中高の教育現場での経験からはソーシャルワーク的な視点からの子どもの支援について言及する。			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
貧困の福祉学 I	647	1後	必 (社) 必	2単位 30時間	講義	水4
担当教員 (○印=科目責任教員)						
○下村幸仁 SHIMOMURA, Yukihiro						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
<p>貧困は社会福祉のもっとも古い、根源的なテーマである。今日の先進諸国においても、貧困はその姿を変えて拡大・再生産されている。現代の貧困は、経済的な貧しさを意味するだけでなく、機会の不平等、標準的な生活スタイルからの逸脱、人間関係の希薄・粗雑化、精神の荒廃や社会的排除など、広く人間生活の「自立」を脅かす現象である。その貧困の防止と貧困者の救済の仕組みは、現代社会の最後のセーフティネットである。社会福祉全体における公的扶助制度の位置と機能について理解する。特に、わが国の生活保護制度に関する目的、基本原理、原則、保護基準の理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>①貧困の原因を正しく理解できる。 ②生活保護法の基本原理・原則を理解し、説明することができる。 ③生活保護法の目的に即して、利用者の立場を理解した制度理解ができる。 ④学修を通して、セーフティネットの中のソーシャルワーク機能の役割を強く認識できる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
<p>現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。(分析力) (DP4) 人間福祉に関連する領域の専門的な知識を活用し、生活の再構築や地域課題の解決に向けた社会的支援ができると同時に、さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている。(課題解決・応用力) (DP5)</p>						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	貧困状態にある人の生活実態と社会環境	講義	下村			
2	貧困とは何か	講義	下村			
3	公的扶助の概念、役割、役割	講義	下村			
4	公的扶助の歴史的 (イギリス、その1)	講義	下村			
5	公的扶助の歴史的 (イギリス、その2)	講義	下村			
6	公的扶助の歴史的展開 (日本)	講義	下村			
7	生活保護の動向	講義	下村			
8	生活保護法の目的と基本原理	講義	下村			
9	生活保護法の原則	講義	下村			
10	保護の種類と最低生活費及び算定方式	講義	下村			
11	生活保護の財源及び保護施設の種類とその内容	講義	下村			
12	生活保護の権利と義務、そして不服申立	講義	下村			
13	ホームレス対策	講義	下村			
14	生活困窮者自立支援と低所得者制度等	講義	下村			
15	貧困に対する支援機関と専門職及び連携	講義	下村			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業時に配布する授業計画表内に示した、各授業回に関連したテキストの該当頁については、予め読み込んでおくこと。 ・授業は基本的にアクティブ・ラーニング形式で実施しますので、グループごとに必ず各授業回数のテキスト該当箇所について発表できるようにまとめておくこと。
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版』（弘文堂、2,700円） 参考文献：尾藤廣喜ほか編著『改定新版 これが生活保護だ』高菅出版、柏木ハルコ著『健康で文化的な最低限度の生活』（第1～10巻）小学館、杉村宏編著『格差・貧困と生活保護』明石書店、金子充著『入門 貧困論』明石書店、青木紀ほか編著『現代の貧困と不平等』（明石書店、2007年）、他適宜紹介します。 参考URL：生活保護費（最低生活費）計算シート、山吹書店、http://yamabuki-syoten.net/page-23/</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解：貧困の歴史を理解していること。生活保護制度の目的、基本原理、原則を理解していること。 定期試験80% 2. 思考・判断：貧困状態及び生活保護を利用している人たちをどのように援助していくべきか思考し判断できていること。 小テスト（2回実施）10% 3. 態度・志向性：講義への参画及び講義内容へのリアクションペーパー10% <p>1～3の合計で100%です。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストに関しては解説を行います。 2. リアクションペーパーに関しては、特徴的なコメントについて次回の講義で紹介することで問題意識の共有化を図ります。
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>概要でもふれましたが、公的扶助は現代社会において私たちが生きていくための最後のセーフティネットです。新聞等により貧困に関する社会問題に関心をもち、社会正義の視点をもち自律的に学ぶようにしてください。 なお、本講は社会福祉士資格取得の必修科目である。また、貧困の福祉学Ⅱと連続しているので、貧困の福祉学Ⅰを履修しないと貧困の福祉学Ⅱは履修できません。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>福祉事務所で生活保護ソーシャルワーカーの実務経験20年を有し、またホームレス等の支援も長年行っており、学生の皆さんには理論と実際の乖離が何故生じるのかなどについても講義のなかで触れていきます。</p>